

新市中央中学校区

～キャリア教育実践の手引き本編～



2021年（令和3年）4月より、「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」3年間の指定を受け、研究がスタートしました。「キャリア教育＝企業と関わる事?」「キャリア教育でどんな児童生徒を育成するの?」「どうやって成長をみとるの?」「校区で9年間を見据えた取組を進める上で、どんな連携や取組が必要となるの?」「企業と関わる際のポイントは?」「これまでの各校の取組をどう引き継ぎ、改善していくの?」など、校区推進委員会や各校でたくさん悩み、たくさん試行錯誤しました。

この「実践の手引き」では、そうした3年間の取組の中で、キャリア教育の視点から、「本校区で育てたい児童生徒像をどのように設定したか」「目指す児童生徒像へ向けてどんな取組を行ったか」「取組を通じてどのような成果と課題がみられ、どのような改善策が考えられるかな」など、今後、児童生徒・学校・地域を「より良く」していくために、本校区で取り組んだことを紹介します。本校区の今後のより一層の発展だけでなく、各校・校区も「やってみたい」と思えるものになれば幸いです。

R5年度福山市立新市中央中学校長 門田剛年

福山市立新市中央中学校 福山市立常金丸小学校 福山市立網引小学校

福山市立新市小学校 福山市立戸手小学校

～目次～

第1章 キャリア教育の推進にあたって p.1

- 1節 研究テーマの設定について
- 2節 推進体制の構築と運営方法について

第2章 新市中央中学校区のキャリア教育で育てたい資質・能力 p.2-8

- 1節 キャリア教育で育てたい資質・能力及び系統表
- 2節 共有化へ向けた取組
- 3節 資質・能力の作成・共有による成果

第3章 企業・地域人材を活用した出前授業 p.9-11

- 1節 出前授業の意義と実施までの流れ
- 2節 成果と今後の検討事項

第4章 資質・能力の向上を目指した各校独自の取組 p.12-16

- 常金丸小学校の取組 ○ 網引小学校の取組 ○ 新市小学校の取組
- 戸手小学校の取組 ○ 新市中央中学校の取組

第5章 地域企業等での職場体験活動 p.17-18

- 1節 キャリア教育の視点を取り入れた職場体験活動の概要と改善ポイント
- 2節 成果と今後の検討事項
- 3節 職場体験活動の代替活動

第6章 企業による面接体験 p.19-20

- 1節 企業による面接体験の概要と従来の活動からの改善ポイント
- 2節 成果と今後の検討事項

第7章 ルーブリックによる資質・能力の評価 p.21-22

- 1節 ルーブリック作成の流れとルーブリックの形式案
- 2節 成果と今後の検討事項

第8章 おわりに～本事業全体を通じての成果～ p.23

この「実践の手引き」では、各取組の「理論」・「成果」を中心に、ポイントを図式化し、まとめています。また、各校のHPにて、次の内容が掲載されています。併せて参考にしてください。

～「実践の手引きダイジェスト版」～

本手引きの内容をベースに、手に取りやすいダイジェスト版にしています。「まずは概要を知りたい」「手短かに研究推進の基本ステップを知りたい」という場合は、こちらをご覧ください。

～「各校の実践の詳細」～

各校のキャリア教育に関わる個別の取組について、次の項目を各校HP上に公開しています。本手引きでの各校の実践の詳細を知りたい場合は、こちらを確認してください。

- ①キャリア教育年間指導計画 ②出前授業やキャリア教育重点単元の単元計画及び実践事例
- ③資質・能力の向上を目指した「学校独自の取組」の詳細
- ④学校全体で使用した、各種活動に用いた統一書式のデータ

第1章 キャリア教育の推進にあたって

○1節 研究テーマの設定について

キャリア教育を校区で推進していく上でのスタート地点が、「研究テーマの設定」「推進体制の構築」です。ここでは、それぞれの手順を紹介します。

★「研究テーマの設定」へ向けた3ステップ



check 児童生徒の実態を「アンケート」から考える際のポイント

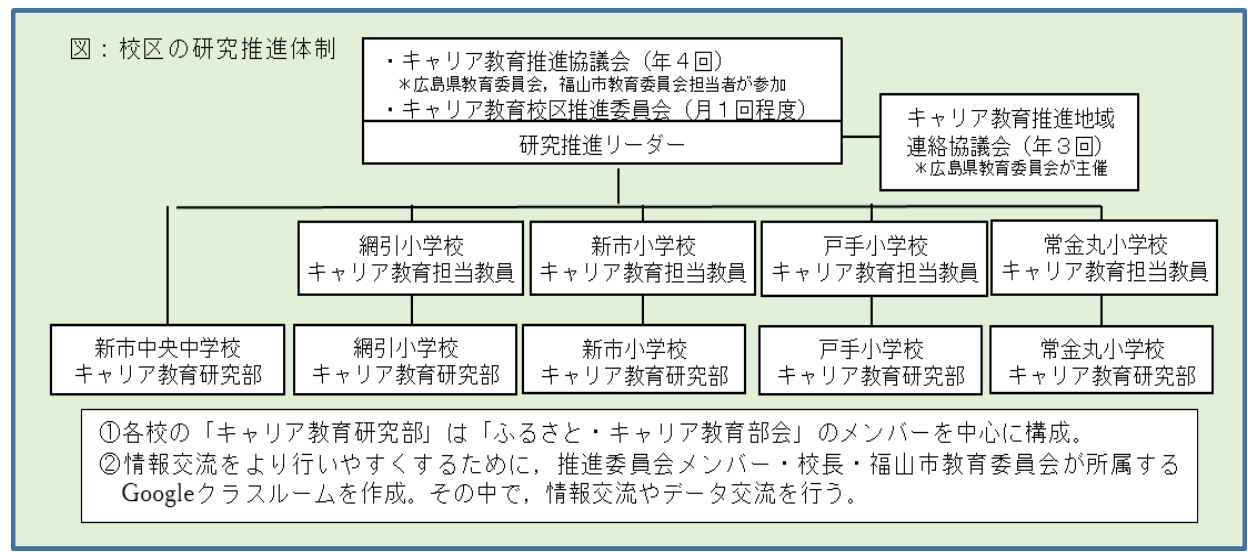
研究スタートの段階では、数年のデータの変動や他地域との比較がしやすい「全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査」や各市町村が実施する質問紙調査といった、「均一化されているアンケート」「変化が見やすいアンケート」を用いると、準備の手間削減やデータの比較分析のしやすさにつながります。本校区では、「校区環境」「全国学テなどの質問紙調査」「教職員の見立て」の3つから、この地域の児童生徒の課題は何か、9年間でどのような姿になってほしいか、どんなことができるようになってほしいかを考えました。

check 「社会に開かれた教育課程」の実現のために、学校・地域実態の把握はしっかりと！

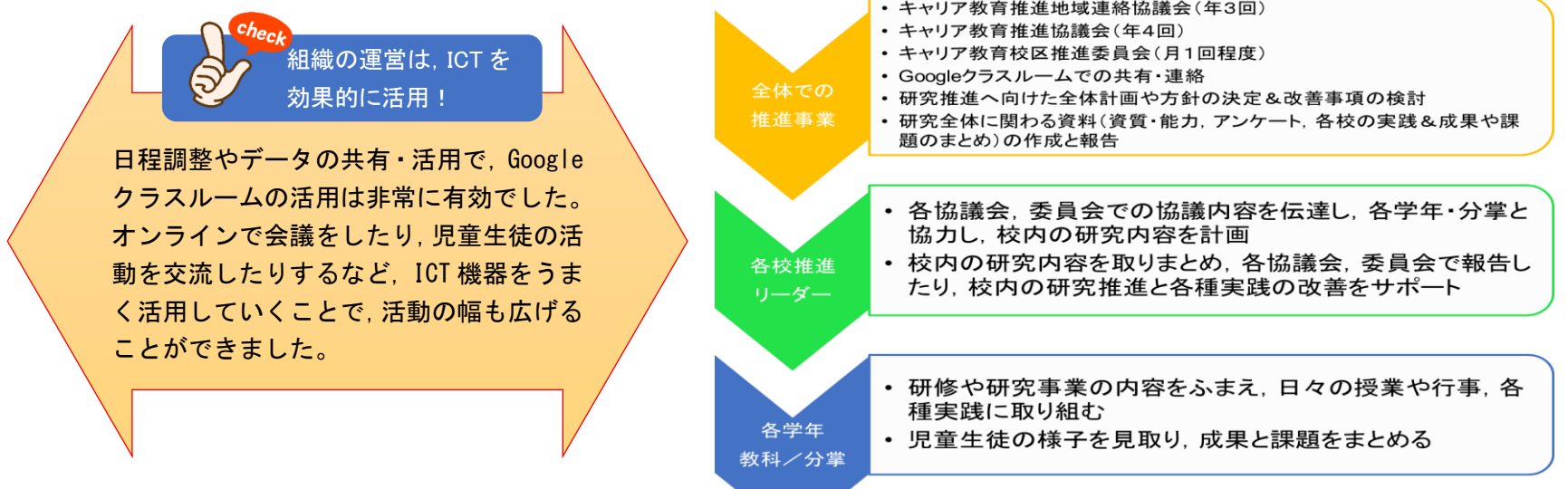
キャリア教育の推進に当たっては、校区や地域の実態に合わせて、つけたい資質・能力の設定や地域と行う実践を考えていきます。年度のスタートにしっかりと整理することで、「これなら取り組める」というものが見つかります。

○2節 推進体制の構築と運営方法について

(1) 推進体制



(2) 運営方法について



第2章 新市中央中学校区のキャリア教育で育てたい資質・能力

○1節 キャリア教育で育てたい資質・能力及び系統表

キャリア教育を行っていく上で、児童生徒や学校、地域の実態に応じて、「児童生徒に9年間を通してどのような資質・能力を身につけさせていくか」を明確にしておくことが重要です。ゴールの姿を明確にしなければ、何を目的に、どんな取組を進めていくかを定めることができません。この節では、本校区での、「キャリア教育で育てたい資質・能力」の設定までの流れを紹介しします。

資質・能力の設定に至るまで

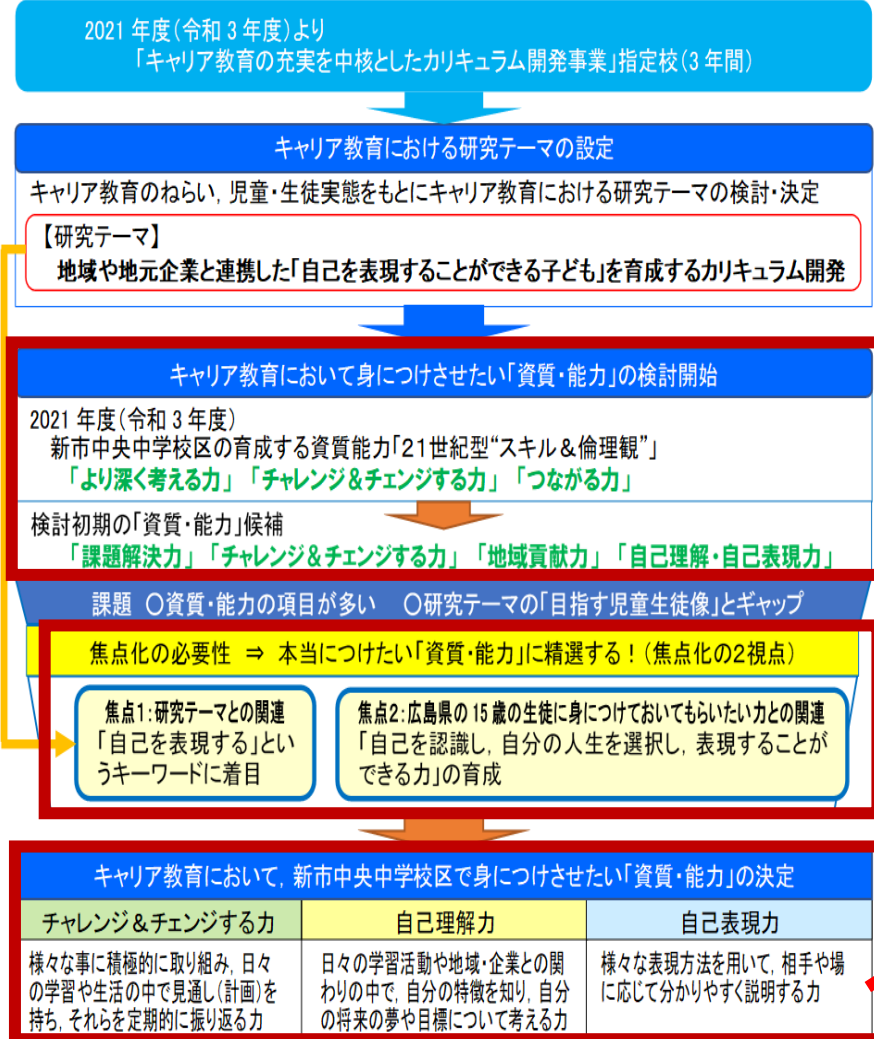


図1: 6月作成当初の資質・能力の系統表(低学年のみ)

課題解決力	チャレンジ&チェンジする力	地域貢献力(地域・社会とつながる力)	自己理解・自己表現
・職場体験学習や企業への関わり、日々の学習活動などを通じて得た情報を、比較・分類・関連付けて、自らの進路実現や職業選択にむけた課題を見つけることができる。	・目標と目標達成に向けた計画を作成し、試行錯誤の中で、新たな課題に取り組み、挑戦している。	・地域の行事に参加したり、事業所との関わりを持ちたりする中で、地域を支える人々の努力や工夫を知ることができる。	・自分の将来の夢や目標、生き方などを自分でしっかりと考え、選ぶ(決定)することができる。
・課題解決の中で発見したことから、教科の学習活動と現実社会との関連性を見つけ、日々の学習へ意欲的・積極的に関わり取り組むことができる。	・職場体験学習や企業への関わりをはじめとした、体験的な学習を通じて、自分の職業意識や進路実現についての考えや計画を構築しようとしている。	・社会全体の現状と地域の実態を比較する中で、地域の良いところや課題を新たに発見し、地域をよりよくしようとする意識や考えを持っている。	・地域や社会の事象についての自分なりの考えを持ち、論理的に説明することができる。
・仲間の良いや違いを認め合い、自ら積極的に他者と関わり、協働して課題解決しようとしている。			・自分の考えを表現するために必要な手法を知り、各表現活動の中で適切な方法を選択できる。
			・自分で考え、選んだことを、見知らぬ大人(社会で活躍する教職員以外の職業人)に堂々とわかりやすく述べることができる。

現時点で出ている各小学校「低学年」「中学年」「高学年+中学1年」の案 黄色:網引小 緑:新市小 青:戸手小

課題解決力	チャレンジ&チェンジする力	地域貢献力(地域・社会とつながる力)	自己理解・自己表現
・自分の考えを持ち、進んで書いたり、話したりしている。	・自分のやりたいことや苦手なことを最後までめざりながらチャレンジしている。	・地域について知っていて、その良さに気づくことができる。	・自分の意見や考えを話すことができる。
・自分の考えを持ち、進んで書いたり、話したりしている。	・苦手なことでも最後まで取り組もうとしている。	・地域の行事に進んで参加している。	・話し相手には、相手に伝わる声の大きさを考えて話す。
・問題を理解する、身に付ける。	・自分の好きなことを見つけてのびのびと活動する。	・地域の行事を知っている。	・自分の好きなことや得意なこと、大切なことなどを知っている。
・自分の考えを順序よく説明している。	・自分で決めたことをどうすればできるよくなるかを話し合っている。	・仕事の種類、内容について知っている。	・話し相手には態度や言葉遣いでコミュニケーションをとることができる。
・自分の考えをもち、それをなんとか解決しようとしている。	・苦手なことでも最後まで諦めずチャレンジしている。	・親や地域の人の働く様子を見たり、調べたりして関心をもつ。	・仕事について調べ、これから自分がしていきたいことやその働く人の思いを考える。
		・働く様子を見たり、調べたりして働くことに関心を持つ。	・話し相手には相手の話をよく聞き、相手の話に合う言葉遣いをする。

図1の本校区の6月初案のように、評価基準が多いと・・・

- 推進委員会や全体研修会の中で文言がなかなかまとまらない。
- 生徒や職員、企業と共有するという視点に立った際、内容が多岐にわたり分かりづらい。
- 具体的にどんな力をつけるために、どんな取組を行うのか方向性が定まらない。
- 評価をする際に、文言に複数の状況(評価の視点が二重にまたがっている)のため、成果と課題の背景がどこにあるのか、検証が行いづらい。

図2: 8月・9月の資質・能力の系統表

資質・能力	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
中学2・3年	・自分の目標と目標達成に向けた計画を立て、他者と協力・協働し、より良い方法を考えながら取り組むことができる。	・日々の学習活動や地域・社会との関わり、自分ができることややりたいことについて考え、実践することを通して、自分の将来の夢や目標、生き方を考え、もつことができる。	・自分の思いや考えを、相手や場に応じた言葉遣いや多様な表現方法を用いて、分かりやすく説明することができる。
中学1年高学年	・目標と、目標達成に向けた計画を立て、他者と協力・協働し、取り組むことができる。	・日々の学習活動や地域との関わりを通して、自分の将来の夢や目標、生き方について考えをもつことができる。	・友達の思いや考えを大切にしながら自分の考えについて振り返り、多様な表現方法を用いて説明することができる。
中学年	・目標を立て、失敗を恐れず最後まで やりきることができる。	・友達の考えを良く聞き、認め合い、自分の考えを持つことができる。	・友達の考えをよく聞き、書き表したり、話したりすることができる。
低学年	・自分で決めたことを、最後までチャレンジして取り組むことができる。	・自分の意見や考えをもったりできるようにしたことや良いところなどに気づいている。	・自分の思いを相手に伝えることができる。

8月末 校区推進リーダーを中心に作成⇒校区推進委員会で協議

9月頃 各校で分担⇒校区推進委員会で協議・決定

課題対応能力 | キャリアプランニング能力 | 自己理解力・社会形成能力 | 人間関係形成・社会形成能力

中央教育審議会の「キャリア教育でつけたい力」として提唱されている「基礎的・汎用能力との関連」

check 一文で表現する系統表を作成する際に留意したことは・・・

○「カテゴリごとの発達段階に合わせて、少しずつレベルアップした姿をイメージしていく」ことを絞り込みのポイントとすることで、作成や文言の整理がしやすかったです。

○発達段階に応じてできることは異なるので、学年での協議で、他の先生の意見も吸い上げながら行うことで、より実態に応じたものになると思います。

図3: 資質・能力の系統表最終版

資質能力	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
中3	目標達成に向けて、より良い方法を考え取り組むことができる。	日々の学習活動を通して、自分の将来の夢や目標、生き方を考えることができる。	自分の思いや考えを相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる。
中2	達成状況を振り返り、改善策を考えることができる。		
中1高学年	活動を振り返り、改善策を考える。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて説明できる。
中学年	困難なことにも挑戦し、最後までやりきる。	自分の得意な事や夢中になれる事を見つける。	自分の思いや考えをまとめて表現できる。
低学年	自分のやりたいことに挑戦する。	自分の良さに気付く。	自分の思いを相手に伝えることができる。

新市中央中学校区での資質・能力の共有化へ向けた3つのポイント

「よく見るもの」「これまで使ってきたもの」に資質・能力を取り入れ、より身近で常に意識できるよう工夫する。

系統表の言葉を「より分かりやすく」伝える掲示や各企業等との連携シートを工夫する。

児童生徒の資質・能力の現状や伸びを数値や文字で確認し、改善方を考える。

(2) キャリア・ログ／キャリア・パスポートの作成・活用



キャリア・ログ／キャリア・パスポート作成・活用の意義

児童生徒の資質・能力がどのように伸びているかを見取り、それを評価するためには、アンケートだけの数値的な結果だけでは見ることができません。児童生徒・教職員のPDCAを回していくために、資質・能力の重点を当てている単元や特別活動の中で、自分たちの取組の軌跡やその時考えていたことを蓄積しておく必要があります。

キャリア・ログの活用（例：網引小学校）

○各学期の「学活」を使いながら記入
○学年の最後には、キャリアファイルの中にある、過去の自分の記録とも照らし合わせながら、将来像や年間の振り返りを記入

これまでのキャリア・ログ／キャリア・パスポートから何が変わったか？

- 資質・能力をきちんと位置付け、それに対して、学期や1年間を振り返り、自分の成長を感じられる構成に。
- これまで、バラバラだった各行事の記録や学期の振り返りを一元化することで、1年間の自分の頑張りが、1つの物に残るように。
- 記載した内容は、児童生徒との個人面談や三者懇談の場で活用できるように。

新市中央中学校版：キャリア・パスポート（文部科学省の物を参考に作成）

R5年度 新市中央中学校 1年生
私の1年間のキャリア・パスポート

「私の1年間のキャリア・パスポート」を作成するねらい
「キャリア・パスポート」とは、みなさんが、教科学習、教科外学習（行事、生徒会活動、部活動など）、学校外活動（ボランティア活動などの地域活動や習い事など）を通して自分を見つめ、将来について考えたことを記録し、高等学校まで蓄積していくものです。この「キャリア・パスポート」への記録は、学んだことや感じたことを振り返り、新たな学習や生活への糧につなげ、将来の生きかたを考えたことを目的としています。また、保護者や先生が、皆さんの学習や生活の状況、将来設計の状況を把握したり、みなさんを深く理解したりすることに役立ちます。

生徒たちへのメッセージ
新市中央の学校教育目標は、『達成感・感動・憧れ』です。授業や生徒会活動、部活動、行事、地域貢献などのすべての活動で、みなさん自身が考えて、工夫して、協力して取り組み、最後、たくさんの達成感や感動を味わってください。1つ1つの活動につなげ、他の活動や次の活動でも活かされます。すべての活動はつながっています。この「キャリア・パスポート」で、自分のつた力や成長を確かめてください。

2023年4月 新市中央中学校校長 門田 剛年

★キャリア・ログ／キャリア・パスポートの活用例★

網引小学校の例

各学期の「学活」の時間を中心にこのキャリア・ログを作成しています。6年生のキャリア・ログでは、最後のまとめとなる時間に、これまでの小学校6年間のキャリアファイルの中にある、自分の記録と照らし合わせながら、6年間全体を通じての自分の成長を振り返ったり、中学校生活で頑張りたいことを記載したりしています。

新市小学校の例

児童は、「学習」「係活動・生活・掃除」「お家や地域」「学校行事」を資質・能力の視点で振り返り、その中から選択したものをキャリア・ログに記載しました。資質・能力を教育活動や家庭での様子と結び付けながら、振り返ることができ、資質・能力を自ら高めようとする姿が見られました。

キャリア・ログふりかえりワークシート（中学年）

どんな時に「あ」「い」「お」の力が身に付いたと感じましたか？ふりかえって書きましょう。

あ	い	お
自分の思いや考えをまとめて書きたり	友達や先生に話を聞いて、自分も考えて書きたり	自分の成長や学びに気づき、喜びを感じたり
自分の思いや考えをまとめて書きたり	友達や先生に話を聞いて、自分も考えて書きたり	自分の成長や学びに気づき、喜びを感じたり

記録をとる場面（タイミング）や活用の方法は、教職員・児童生徒間で共通認識を！

キャリア・ログ／キャリア・パスポートに記録を蓄積させていく際、発達段階によっては書く作業に負担を感じる児童生徒がいます。また、「どんなタイミングで記載するのか」「キャリア・ログ／キャリア・パスポートのどこにどんな記載をしていくのか」がはっきりするように、書き方の手引書を作成したり、全体へのアナウンスを定期的に行ったりしないと、統一性がなく、不十分な記録となっていきます。

新市中央中学校の例

「行事」「総合的な学習の時間」「出前授業」「各学期の反省」「キャリア教育アンケート資質・能力現状分析シート」の5つに取り組み際、キャリア・パスポートに記入をする。「どんな目標で活動に取り組むか」を考え、活動や単元が終わったら、自分の取組に対する姿勢や、どのように取り組んで資質・能力を伸ばしていったかなど、成果・課題について振り返りを行う。

学年通信での記入内容の活用

1学期	4月 ○「私の1年間のキャリア・パスポート4月」の記入 ○「行事」体育大会の目標を記入	「出前授業」 「総合的な学習の時間」 の内容を随時記入
2学期	8・9月 ○「行事」文化祭の目標を記入・振り返り 10月 ○「行事」合唱大会の目標を記入 11月 ○「行事」合唱大会の振り返りを記入 ○「特活（学活）」を活用してキャリアカウンセリング①（試験週間）	「出前授業」 「総合的な学習の時間」 の内容を随時記入
3学期	1月 ○「キャリア教育アンケート資質・能力現状分析シート②」を記入 2月 ○「特活（学活）」を活用してキャリアカウンセリング②（試験週間） ○1年間のまとめをする 3月 ○キャリア・パスポート、総合的な学習の時間の成果物（特に1つ）、職業体験ノートなどをキャリアファイルに入れる。	「出前授業」 「総合的な学習の時間」 の内容を随時記入

4月初めの自分の様子の記入（4月）
キャリアカウンセリング（特活）での活用（6月）
キャリア教育アンケート分析での活用（5月）
三者懇談での活用（12月）

新市中央中学校区での資質・能力の共有化へ向けた3つのポイント

「よく見るもの」「これまで使ってきたもの」に資質・能力を取り入れ、より身近で常に意識できるよう工夫する。	系統表の言葉を「より分かりやすく」伝える掲示や各企業等との連携シートを工夫する。	児童生徒の資質・能力の現状や伸びを数値や文字で確認し、改善方を考える。
--	--	-------------------------------------

(4) 企業との連携シート・生徒ワークシートに資質・能力を記載

第3章で詳細を述べる「出前授業」に関わって、資質・能力を念頭に置いた連携シートを作成・活用することで、出前授業の内容が実社会や普段の生活のどのような場面とつながっている内容なのか、本校区で設定している資質・能力がどのように、実際の職場で活かされているかを話してもらえよう。出前授業の連携を行うことができます。(図4)

A: 教科	B: 連携先	C: 学習内容	D: 出前授業での目標
国語	中国新聞	単元名(情報整理書) 内容 分かりやすく説明する	わかりやすく構成を 考えられるようになる。
E: 出前授業の内容で印象に残ったこと 学んだこと	5W1H = いつ(When)、どこで(Where)、だれが(Who)、何を(What)、なぜ(Why) 文章の構成 第一段落は命! 第二段落... 一番大切なこと、第三段落... 様子 第三段落... 分かったこと、とんとん... 意見→理由→結論→まとめ		
F: 出前授業の学びを日々の生活や将来にどうつなげていくか	国語の授業で文章がどう書くとよいか 5W1H いつ(When)、どこで(Where)、だれが(Who)、何を(What)、なぜ(Why) などを書いて書こうにする。大人に読んでもらう。発表するにも 5W1H を意識して。		

図4: 国語科中学1年生で、「自己表現力」を重点として取り組んだ単元における「中国新聞社」の出前授業の際の連携シート

表現技法としての5W1Hの重要性を認識し、今後の発表(表現活動)の中でも生かそうと考えている。

- ① 出前授業を通じて、授業者(学校側)が児童生徒に身につけてほしい事・学んでほしい事
- たくさんの情報の中から、どうやって伝えたいものを選ぶのか。
 - 伝えたいものを決めたら、今度はそれについての情報をどうやってどのくらい集めるのか。
 - 集めた情報をどのように整理し、分類し、まとめていくのか。
 - どんな書き方をすれば、相手にわかりやすく伝わるのか。
- といったことを教えてほしい。そして、この単元で培った力が、社会に出てどう役立つのか、社会とどうつながっているのかを話してもらいたい。

② 本校区では、9年間で系統的なキャリア教育を実施するために、「チャレンジ&チェンジする力」「自己理解力」「自己表現力」という3つの資質・能力と、その具体的な姿を設定しています。講師の方には、本校区の資質・能力として設定している力(具体的な姿)が、現在、仕事をしていたり、日常生活を過ごしたりする中で、どのように発揮されているかを、5分程度で語っていただきたいです。内容は、3つの観点に万遍なく触れていただいても構いませんし、1つの観点到絞ってもらっても構いません。社会の最前線で働いている方の話を通じて、生徒の職業観を高めていけたらと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

3観点	思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度	知識・技能/主体的に学習に取り組む態度	知識・技能/思考・判断・表現
資質・能力	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
中学2・3年	目標達成に向けて、より良い方法を考えて取り組むことができる。 達成状況を振り返り、改善策を考えることができる。	日々の学習活動を通して、自分の将来の夢や目標、生き方を考えることができる。	自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる。
中学1年 高学年	活動を振り返り、改善策を考える。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて説明できる。
中学年	困難なことにも挑戦し、最後までやりきる。	自分の得意な事や夢中になれる事を見つける。	自分の思いや考えをまとめて表現できる。
低学年	自分のやりたいことに挑戦する。	自分の良さに気付く。	自分の思いを相手に伝えることができる。



出前授業の内容は、企業側が用意している学習プログラムを最優先!

出前授業の内容を無理やり、キャリア教育の資質・能力と結びつける必要はありません。単元の中で、キャリア教育の資質・能力と関わりが深い学習活動・内容を扱う際に「あの時の出前授業の話は、ここに生きてるよ」など、出前授業の中で学んだことや体験を結び付ける声かけをしていく形で、結びつけを行うという学び方もあります。企業やプログラムによっては、学校の要望で内容を変更できる場合もあるので、連携シートを使うことがより効果的だと思います。

連携シート表面(日程や会場・授業内容の確認)

出前授業連携シート

(1) 連携企業 (作成者)

企業名		担当者	
連絡住所		メール	
		TEL	

(2) 実施形態

実施方法 (○)	出前授業(対面)	オンライン授業
オンラインの場合の使用ソフト	Zoom	その他オンライン会議システム ()

※開催日が複数ある場合も全て記入。

開催日候補	年 月 日 ()	年 月 日 ()	年 月 日 ()
開催時間	時限目 (~)	時限目 (~)	時限目 (~)
	時限目 (~)	時限目 (~)	時限目 (~)
	時限目 (~)	時限目 (~)	時限目 (~)
	時限目 (~)	時限目 (~)	時限目 (~)

実施内容	
単元名	教科書 該当P
実施学年	() 学年 実施 クラス () クラス

実施にあたっての詳細及び希望/打ち合わせ内容/注意事項など

【出前授業を実施するにあたっての学校側の要望・検討内容】※連携先に送付

生徒にとって、今回の出前授業が充実したものになり、日々の学習と実社会のつながりを実感できる内容になるよう、可能であれば、次の4点を出前授業の内容や講話を行う際に、ポイントとしていただけると幸いです。ご検討ください。

- ① 出前授業を通じて、授業者(学校側)が児童生徒に身につけてほしい事・学んでほしい事
- ② 本校区では、9年間で系統的なキャリア教育を実施するために、「チャレンジ&チェンジする力」「自己理解力」「自己表現力」という3つの資質・能力と、その具体的な姿を設定しています。講師の方には、本校区の資質・能力として設定している力(具体的な姿)が、現在、仕事をしていたり、日常生活を過ごしたりする中で、どのように発揮されているかを、5分程度で語っていただきたいです。内容は、3つの観点到万遍なく触れていただいても構いませんし、1つの観点到絞ってもらっても構いません。社会の最前線で働いている方の話を通じて、生徒の職業観を高めていけたらと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

3観点	思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度	知識・技能/主体的に学習に取り組む態度	知識・技能/思考・判断・表現
資質・能力	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
中学2・3年	目標達成に向けて、より良い方法を考えて取り組むことができる。 達成状況を振り返り、改善策を考えることができる。	日々の学習活動を通して、自分の将来の夢や目標、生き方を考えることができる。	自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる。
中学1年 高学年	活動を振り返り、改善策を考える。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて説明できる。
中学年	困難なことにも挑戦し、最後までやりきる。	自分の得意な事や夢中になれる事を見つける。	自分の思いや考えをまとめて表現できる。
低学年	自分のやりたいことに挑戦する。	自分の良さに気付く。	自分の思いを相手に伝えることができる。

③ 今回の出前授業を実施する単元・内容とつながりのある、教科書のページを添付しています。出前授業のワークシートや講話をする際に、教科書の内容を同時に学べるものであれば大変助かります。出前授業の中での専門的な内容も含めて、ご検討ください。

④ 今後の授業改善や記録のため、必要に応じて写真や動画を撮影させていただきます(撮影したものは、必要であれば提供します)。撮影不可の場合は、お知らせください。なお、動画や写真をHPなどに掲載する場合は、個人情報の観点から、本校が生徒・保護者に配布している「個人情報HP掲載など」の同意書が出ている生徒かどうかを確認したいため、ご連絡ください。

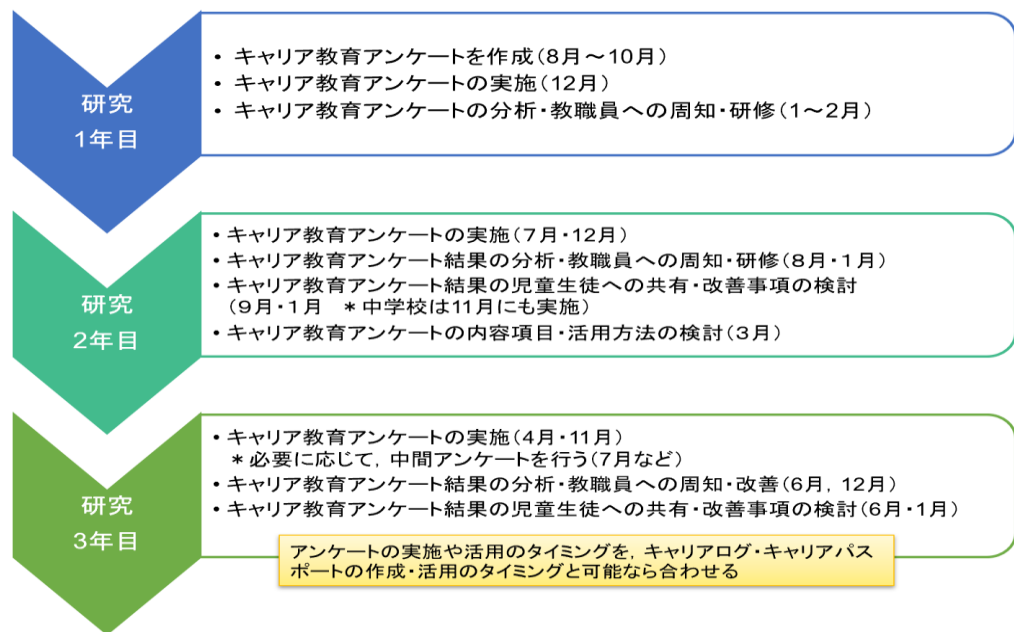
学校名(住所)	()
担当 教諭名	()
TEL (FAX)	TEL: (FAX:)
メール	()

連携シート裏面(資質・能力と授業の関わりの確認)

新市中央中学校区での資質・能力の共有化に向けた3つのポイント		
「よく見るもの」「これまで使ってきたもの」に資質・能力を取り入れ、より身近で常に意識できるよう工夫する。	系統表の言葉を「より分かりやすく」伝える掲示や各企業等との連携シートを工夫する。	児童生徒の資質・能力の現状や伸びを数値や文字で確認し、改善方を考える。

(5) 資質・能力に基づくキャリア教育アンケート

児童生徒の資質・能力がどのくらい高まったか、あるいは、どこに課題があるのかなど、児童の変化を客観的に見たり、各種取組の成果と課題を検証したりする1つの材料にするために、校区独自のアンケート(図5)を作成しました。



資質・能力の系統表の内容を疑問形にして、アンケート項目をシンプルに!

check

最初2年間使用したアンケートは、多様な角度から児童生徒の実態を捉えるために、各種アンケートを参考に、20個以上の質問項目を準備していました。しかし、教職員や児童生徒の声から、「回答へ負担感を感じる」「分かりづらい」という意見が出てきました。そこで、系統表の文言に沿って項目を作ることで、分かりやすい&アンケート分析や改善方策の検討を行いやすくなりました。

図5:キャリア教育アンケート(2023年 最終版)

	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
低学年	①自分のやりたいことに挑戦(チャレンジ)していますか?	②自分の良いところを見つけていますか?	③自分の思い・考えを相手に伝えてありますか?
中学年	①自分のやりたいことに挑戦(チャレンジ)していますか? ②難しいことにも挑戦していますか? ③挑戦したことを最後までやり切っていますか?	④自分の良いところを見つけていますか? ⑤自分の得意なことや夢中になれることがありますか?	⑥自分の思い・考えを相手に伝えてありますか? ⑦自分の思いや考えをまとめて、相手に伝えてありますか?
高学年・中1	①自分のやりたいことに挑戦(チャレンジ)していますか? ②難しいことにも挑戦していますか? ③挑戦したことを最後までやり切っていますか? ④自分の挑戦していることや活動を振り返っていますか? ⑤振り返りをもとに、改善策を考えていますか?	④自分の良いところを見つけていますか? ⑤自分の得意なことや夢中になれることがありますか? ⑥自分の将来の夢や目標を持っていますか?	⑦自分の思い・考えを相手に伝えてありますか? ⑧自分の思いや考えをまとめて、相手に伝えてありますか? ⑨思いや考えをまとめる際に、いろいろな表現方法を使いながら伝えよう(説明しよう)としていますか?
中2・3	①自分のやりたいことに挑戦(チャレンジ)していますか? ②難しいことにも挑戦していますか? ③挑戦したことを最後までやり切っていますか? ④活動の中で目標(計画)を立てていますか? ⑤目標(計画)の達成に向けて、よりよい方法を考えていますか? ⑥自分の挑戦していることや活動の達成状況を振り返っていますか? ⑦振り返りをもとに、改善策を考えていますか?	⑧自分の良いところを見つけていますか? ⑨自分の得意なことや夢中になれることがありますか? ⑩自分の将来の夢や目標がありますか? ⑪日々の学習活動は、自分の将来の夢や目標・生き方を考えることにつながっていますか?	⑩自分の思い・考えを相手に伝えていますか? ⑪自分の思いや考えをまとめて、相手に伝えてありますか? ⑫思いや考えをまとめる際に、いろいろな表現方法を使いながら伝えよう(説明しよう)としていますか? ⑬自分の思いや考えを伝える際、相手や場に応じた分かりやすい説明になるよう工夫していますか?

★キャッチ教育アンケートの活用例★

戸手小学校の例:児童によるアンケート結果分析への活用

- 8・9月…アンケート結果の分析(職員→児童) 職員は、夏季休業中の研修で、各クラス・学年で、資質・能力に関するアンケート結果を分析。児童は、昨年度の自分たちのアンケート結果と比較し、伸びている力・伸ばすべき力を、各クラス、特別活動の時間等で対話し、明確にする。また、そこから自分・クラスの目標を自分たちで設定し、取り組む。検討するアンケート結果はグラフで掲示(昨年度と今回の変化を表したグラフ)。
- 各行事…自己の振り返り 行事を通して、資質・能力に係わる自己の振り返りをていねいに行う。
- 12月…アンケート結果の比較と分析・今後の取組の検討 8・9月と12月のアンケートの結果を児童同士が対話したり、1人1人が自己内対話したりしながら比較検討する。また、学年末までに取り組むべき内容についても対話する。

自分たちで決めた目標に向けて、日々自分と向き合います。できたらシールで視覚化。

自分を知り(自己理解)次の目標に向かって「チャレンジ&チェンジ!」全て、自分たちで対話しながら課題を見取り、目標を決めています。

新市中央中学校の例:教職員研修への活用

夏季校内研修で、1時間程度の研修を実施しました。アンケート結果を基に、より具体的姿をイメージしながら、児童生徒の意識や実態に基づいた、教職員側の取組や児童生徒の活動の改善方法を考えることができました。また、校区での研修においても、このアンケート結果を用いて、校区として何に取り組み、資質・能力を向上させていくか考えました。

校区合同研修会



職員研修(新市中央中学校)



(3年生)8月1日 夏季キャリア教育研修 (7月アンケート結果の考察)

①5月と比べて、7月のアンケート結果や目の前の具体的な生徒の姿で成果や課題は何か?(10分)

②①で出た成果や課題の背景にある出来事・要因は何か?(10分)

*適宜、表の列は増やしてください。

①成果	②その背景にある出来事・要因
自分の活動に対して達成状況を振り返り 改善策を考える力が大幅にUPしている	・キャリアパスポートの活用が昨年よりも学期間で多く できたこと ・総合ではルーブリックの活用や相互評価の機会を増やしたことで現状把握しやすくなったため
③課題	④その背景にある出来事・要因
最後までやり切れない	・自身の力を過大評価している部分があり、目標設定が現状とそぐわない。 ・やるべきことを整理し・優先順位をつけて計画的に進める力が弱い。

③②を踏まえて、各学年でどのようなことに2学期取り組んでいくか?(10分)

- 引き続き、各行事ごとにキャリアパスポートを活用し、相互評価などを取り入れて、自己改善策をアップさせていく。また、中心となる生徒だけでなく、どの生徒も頑張りが承認されたと思えるような評価の在り方を考え、実行していく。
- 自己の進路達成に向けて、セミナーテスト・定期テスト・自己表現の取り組みを計画させる中で、「現実自己」からスモールステップを考えさせ、「理想自己」に近づけていく。

○3節 資質・能力の作成・共有による成果

(1) 資質・能力の設定によって、各行事や学習活動で改善の視点がより明確に

「根拠を出しながら話すこと（対話すること）で、周りに説明する」という「自己表現力」を鍛えるパフォーマンス課題を設定した授業に取り組んでもらうよう、職員研修で周知しました。それを受け、各教科でそうした自己表現力の向上を目指した単元（授業）計画を作成して、計画的に授業を進めていくことができました。

例：新市中央中学校 校内研修・校区研修資料

- (A) **チャレンジ&チェンジ**…学習の計画や達成状況を振り返る。相互で達成状況を交流する。パフォーマンス課題に取り組む。 など
 - (B) **自己理解力**…日々の学習と実社会のつながりが実感できる体験活動・出前活動を実践する
 - (C) **自己表現力**…様々な自己表現活動を仕組む。パフォーマンス課題・レポート・グループワーク
- *特に、今年度は、「**根拠を出しながら話すこと（対話すること）で、周りに説明する**」という部分の自己表現に力を入れてみてください。スピーチやディベート、動画の撮影など。

自己表現力	学習内容について、自分の意見を他者に伝える場が設定されている。 自分の意見を伝えるために、分かりやすく相手に伝えるための指示や工夫がある。	校内研修：相互参観授業の視点
チャレンジ&チェンジする力	単元や本時の学習内容の目標達成に向けて、よりよい方法を考える場面設定がある。 自分の学習状況を振り返り、学習へ向かう姿勢や粘り強さについて、改善策を考える設定や工夫がある。	
自己理解力	学習活動の中に、生徒の将来の夢や目標、生き方を考えることにつながる授業の工夫がある 学習活動の中に、生徒が学ぶ意義を追求できるような、実社会とのつながりを持たせる工夫や設定がある。	

(2) キャリア・ログ／キャリア・パスポートの活用することにより、「過去の自分」「自分の現在地」「今後の自分」を客観視することで、「チャレンジ&チェンジする力」の向上に重点を置ける取組になった

目標設定したことに対し自分がどのように取り組んだかを文字として可視化することで、生徒にとっては自身の目標に対して、どこに力を入れたのかがわかるようになりました。また、三者懇談や個人面談で活用する中で、書いている内容を評価するのはもちろん、本人が気づいていない「頑張っている部分」「もっと伸ばしたい部分」について、一緒に確認しながら、日々の学校生活・学習の改善事項を考えることができるようになりました。

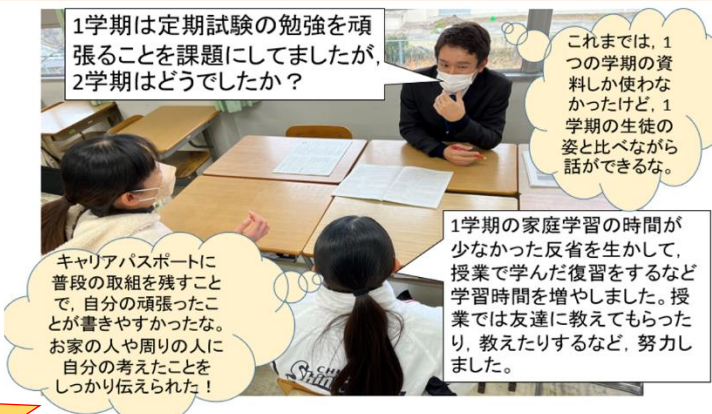
↓児童生徒インタビューより

例：新市中央中学校 キャリア・パスポートを用いた懇談

- 児童生徒の声から見る成果・変容
【Q:キャリア・ログ／キャリア・パスポートを作成して「良かったな」と思うことは？】
- 【網引小6年】今回は〇〇ができてなかったから、次はこれを頑張ろう・これはできたから、次はこれの上をもっと頑張ろうなどと振り返りをしっかりとできるし、自分がかいた目標を守って行動ができる。
- 【新市中央中1年】キャリア・パスポートを使うことで、1学期と2学期で自分がどう変わったかや、「自分は意識していなかったけどあの時の自分はこんなことを思っていたんだ」と振り返るなど、自分を客観視することにつながりました。

キャリア・ログ／キャリア・パスポートを使った面談の際の留意点

短い面談の時間の中で、記載しているすべての内容を網羅することは難しいです。そのため、**予め、面談の前に、記載している内容を確認し、どこをピックアップして伝えるかをきめて、要点を絞って伝える。**ことが円滑に進めるうえで重要です。



- 1学期は定期試験の勉強を頑張ることを課題にしましたが、2学期はどうでしたか？
- これまでは、1つの学期の資料しか使わなかったけど、1学期の生徒の姿と比べながら話ができるな。
- 1学期の家庭学習の時間が少なかった反省を生かして、授業で学んだ復習をするなど学習時間を増やしました。授業では友達に教えてもらったり、教えたりするなど、努力しました。
- キャリアパスポートに普段の取組を残すことで、自分の頑張ったことが書きやすかったな。お家の人や周りの人に自分の考えたことをしっかり伝えられた！
- ★キャリア・パスポートを用いた面談で良かったことは？
【新市中央中2年】自分の今の状況や思っている将来のことについて親に知ってもらえるところが良かったと思います。
【新市中央中1年】その場でうまく喋れなくて、言いたいことが言えなくても、キャリア・パスポートがあるとしっかり考えた自分の意見を相手に伝えられるので、キャリア・パスポートは必要だなと思いました。

(3) 小学校では、資質・能力のキャッチフレーズ化により、児童・教職員が、3つの資質・能力への理解を深めたり、授業改善や振り返りの視点としやすくなったりした。また、成長のきっかけにしている児童もでてきた

↓教職員アンケートより

↓キャッチフレーズに対する児童アンケート・インタビューより

質問項目	しでてんーてつ、ジチいけすやるた分るしのカン力該ージを当に&理学つち解年いエ	解年いー本しでて自校てつ、己区いけ自理でるた分現育いのカて力該ーたを当にい理学つ	解年いー本しでて自校てつ、己区いけ自表でるた分現育いのカて力該ーたを当にい理学つ	う向は子児。け資フ重て質し生有能！徒効カズのだのーと向のキ思上使ヤへ用ツ
R4年度肯定	98%	100%	100%	98%
R5年度肯定	100%	95%	98%	93%

教職員の声から見る成果・変容【Q:「キャッチフレーズ」の活用について、良かったと思えることは？】

子ども達もキャッチフレーズを繰り返し使っているうちに、授業の内容が「あ」、「い」、「み」どれに当てはまるか、自分たちで考えるようになった。

子ども達の振り返りも、以前より内容が詳しくなったり、具体的な場面を想像しながら取組を振り返ったりしている様子が見える。また、ワークシートで振り返る際には、キャッチフレーズと共に、その時に行った活動で言うところの場面のこと！等と、具体例を示すようにしている。そうすると、子ども達は自分で振り返って書いている。

	自分の学年のつけたい力（キャッチフレーズ）が、どんな内容（ないよう）かわかる	キャッチフレーズがあるから、どんな力をつけたらいいかわかりやすい。	つけたい力をのばすために、自分なりに毎日がんばっている
肯定割合	82%	81%	85%
有効数	661件	656件	656件

児童生徒の声から見る成果・変容
【Q:1年間の自分の成長のきっかけに「キャッチフレーズがあったから」と書いていたのはなぜ？】

【網引小4年】★1年間成長したこと
⇒「人の気持ちを考えて行動したり、授業でたくさん発言できるようになった。」
【インタビュー】「あす・じ・ろう」のあすに向かって**チャレンジ&チェンジ**を**見**てから、**たくさん発言することを意識しました**。また、人の気持ちを考えて行動しようと自分から**チェンジ**しました。その結果、たくさん発言したり、人の気持ちを考えて行動できたりすることが増えてきました。

【新市小6年】★1年間成長したこと⇒「考える力」
【インタビュー】[あいのみ]の中の「**い**」(挑む力)をつかって、**難しい問題にチャレンジすること**により、どうやったら解けるかかんがえたり、間違ったらどうしたらいいのか考えていくことにより、考える力が付いたと思います。

(4) キャリア教育アンケート結果の活用により、児童生徒の「チャレンジ&チェンジする力」「自己表現力」に向上がみられたり、教職員が取組に意義を感じ、工夫しながら、よりよい学級経営について考えたりしていた。

児童生徒の声から見る成果・変容【Q:アンケート分析をして「良かったな」と思うことは？】

【戸手小6年】話し合いをしたあとから、みんなが発表できるということを目指したから、それから反応を頑張ったりして、そうすると発表ができるようになった人が増えたから、成長できたから、話し合いをして良かったと思う。

★「目標設定」と「改善策を考える」ことや、考えたことに実際に「挑戦していく」ことなど、「チャレンジ&チェンジする力」の向上につながる意見が多く見られた。

【戸手小3年】自分は人に伝える勇気が出ました。

【新市中央中2年】何かを分析する能力が上昇したことや大事な部分だけ読み取る力が身についた。

★仲間に意見を伝えることの大切さや、結果を自分たちの力で分析することの大切さなど、「自己表現力」の向上につながる意見も多く見られた。

教職員の声から見る成果・変容【Q:アンケート分析をして「良かったな」と思うことや「改善案」は？】

【小学校職員】自分達の力を分析する話し合いの様子は見ていて、いい意味でとても面白かった。自分達の課題を客観的に見て分析し、取組を考える中で「自分達で決めたから頑張ろう」という様子が見えた。

★児童生徒同士で、自分たちを客観的に振り返る。自己決定した内容で頑張る目標を決める。という部分で、活動の良さを実感している。

【中学校職員】一番最近行った分析では、どんなことをしていくと自分達の力が高まるか。というテーマで学級で分析を行った。生徒達は様々な意見を出すことができていたので、個人の目標だけでなく、クラス・班でどう取り組むかという視点での話し合いもやってみると良いと思う。

★学級の実態に応じて、アンケート分析の手法に工夫を入れて、児童生徒にとって考えやすく、マンネリ化しないテーマ設定を模索している。

第3章 企業・地域人材を活用した出前授業

○1節 出前授業の意義と実施までの流れ

キャリア教育の推進をしていく上で、効果的な実践として「出前授業」の活用があります。この章では、出前授業を実施する意義や実施する上でのポイント、実際の実践事例を紹介します。

(1) 企業・地域人材を活用した出前授業の意義と本校区のキャリア教育のつながり

推進地域連絡協議会における筑波大学 藤田晃之教授の講話資料より

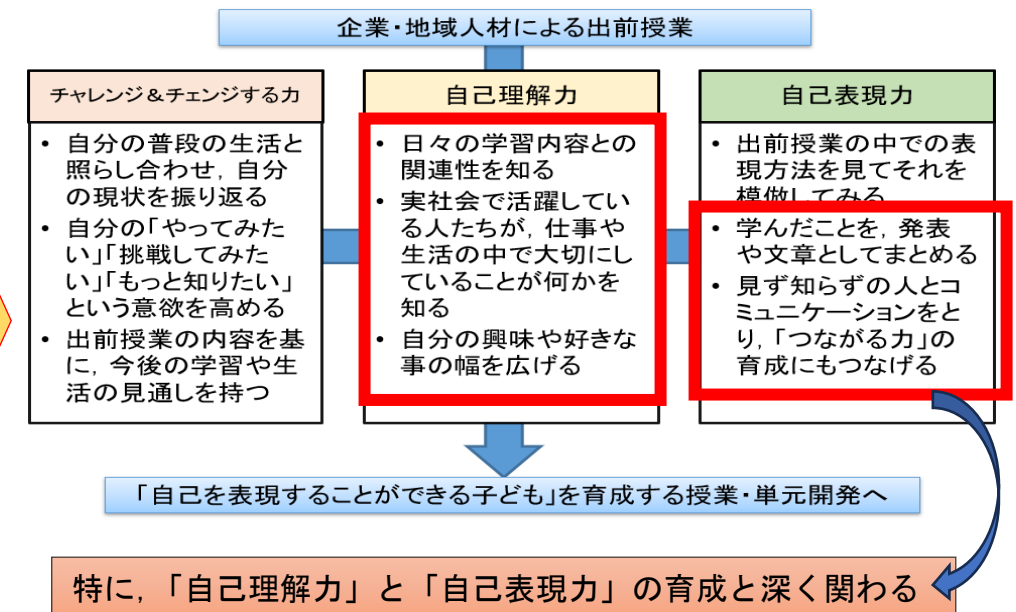
総則が示すキャリア教育実践の在り方

- **小学校** (第4 児童の発達の支援 1 児童の発達を支える指導の充実)
 - (3) 児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。
- **中学校・高等学校**
 - (中学校: 第4 生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実) (高等学校: 第5 生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実)
 - (3) 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。 その中で、生徒が自らの生き方(中) / 生徒が自己の在り方生き方(高)を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

新学習指導要領から見る、「出前授業」の意義

- ① 「自分が普段学んでいることが将来どのように役に立つのか」「各校・校区で設定している資質・能力が社会の中でどのように役立っていくのか」という視点をもって、日々の授業や行事の実践を改善していく。
- ② ①のためには、実際に地域社会で活躍している企業・人材を活用しながら「本物に触れる・本物を感じる」ことで、「自分にはまだこんな力が足りないな」「現在身につけているこの力は通用するな」など、自分の現状を見つめ直し、日々の学習への取り組み方が変わったり、自分の将来やりたいことを深く考えたりする場としていくことが必要となる。

新市中央中学校区のキャリア教育でつきたい資質・能力と出前授業の関わり



(2) 出前授業を実施するまでの5ステップ例 (あくまで例なので、実際に行う場合は、取り組みやすいstepから始めてみることをオススメします！赤の塗りつぶしは、特に実施してほしいstepです)

step 1 年間カリキュラムマップを基に、出前授業を位置付けた単元計画を作成

step 2 単元に即した学習内容を提供している企業をリサーチ

step 3 「連携シート」を活用し、実施方法や内容を調整。授業では、出前授業があることを踏まえた構成にし、単元を通じてつきたい資質・能力が何かを企業や児童生徒に伝達

キャリア教育単元計画 福山市立新市小学校

学年	第3学年	教科等	国語	単元名	すがたをかえる大豆
連携企業等	株式会社 明治	単元時数	全 15 時間		
単元のアプローチ	評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体性	
	資質・能力		自己表現力	チャレンジ&チェンジする力	
	A	幅広く読書に親しみ、読書が自分の喜ぶ活動になるように必要な知識や情報を得ることに役立つことに関心している。	自分の考えとそれを変える理由や事例との関係が明確であり、読み手と筆者の立場を踏まえて書き表し方ができている。	学習の見直しを持って、文章の読解の工夫を見つけてそれを生かして書いている。	
B	幅広く読書に親しみ、読書が自分の喜ぶ活動になるように必要な知識や情報を得ることに役立つことに関心している。	「書くこと」において、自分の考えとそれを変える理由や事例との関係が明確にして書き表し方を工夫している。	学習の見直しを持って、文章の読解の工夫を見つけてそれを生かして書いている。		
C	読書活動から必要な知識や情報を得ることができない。	自分の考えとそれを変える理由や事例を書くことができない。	文章の読解の工夫を見つけてそれを生かして書くことに積極的ではない。		

月	新市中央	綱引	新市	戸手	常金丸
4					
5		6年 社: 租税教室	校内研修 総合的な学習の時間の作り方 1 3年総: マロンナンキンの種まき付け (地域) 2年 生: サツマイモの種まき付け (地域)	3~6年 休: 備後耕 習熟(地域) 5月9日 6年 総: 古墳巡り(地域) 5月10日 2年 生: サツマイモの種まき付け(地域) 5月23日	3年 総: アスバラ農家 見学 26日 (地域) 6年 総: 稲作り (地域)
6	1年 国: 中国新聞出前 6月8日 2年 後: バラ出前 6月16日 2年 総: 探究学習 6月17日 毎週水・金5	6年 総: 吉備津神社 見学	校内研修 総合的な学習の時間の作り方 2 1年生: 花壇づくり (地域) 5年 総: 田んぼ (地域) 6年 総: くい (地域) 4年 社: オガワエコノス	4年 総: メダカの学校 6月22日(地域) 5年 総: 環境教育(地域) 6月28日 5年 総: 車椅子体験 6月10日	5年 総: 田植え体験 8日 (地域) 4年 総: 福祉体験 9日 (地域) 社: 上・下水場 21日 (オガワエコノス)
7	2年 社: 自衛隊 7月6日 (水) 6限 2年 総: 探究学習 7月13・15・20 毎週水・金5	5月 国: 公民館	3年 総: 研究者	5年 国: 朝日新聞 7月15日	4年 社: ごみの処理 14日 (オガワエコノス) 3年 社: 地域の工業 (カイハラ)

出前授業をリサーチするにあたって

各企業のHPや、教育関連の広告などにたくさんの案内が載っています。また、個人や学校のつながりを生かして、地域の企業や講師を探す方法もあります。本校区では、Google クラウドームを活用して、実施例を全体で確認できるようにしました。出前授業だけでなく、学校の行事や総合的な学習の時間での表現活動、各校独自の取組の実施時期なども記入し、必要に応じて、お互いの取組を見たりすることもできるようにしました。

(1) 連携企業 作成者 ()

企業名	(株)オガワエコノス	担当者	
連絡住所	広島県府中市高木町 502-10	メール	ch-hori@o-econos.com
		TEL	080-2920-3760(直通)

(2) 実施形態

実施方法 (○)	出前授業(対面)	オンライン授業
オンラインの場名	Zoom	その他オンライン会議システム ()

※開催日が複数ある場合も全て記入。

開催日	2023年3月3日(金)	2023年3月6日(月)	年 月 日 ()
開催時間	2時限目 (9:55~10:45)	2時限目 (9:55~10:45)	時限目 (~)
	3時限目 (10:55~11:45)	3時限目 (10:55~11:45)	時限目 (~)
	時限目 (~)	時限目 (~)	時限目 (~)
	時限目 (~)	時限目 (~)	時限目 (~)

実施内容	私たちの生活の中で出た「ゴミ」はどのように処理されているのだろうか？		
単元名	第2章 健康と環境	教科書 該当P	教科書 P46, 47 ノート P28, 29
実施学年	(3) 学年	実施クラス	(1~4) クラス

実施にあたっての詳細及び希望/打ち合わせ内容/注意事項など

- ・実施時間…2時間 (50分授業の2コマ)
 - ※2校時 (3年生1, 2組)と3校時 (3年生3, 4組) を予定しています。
- ・教科書やノートの記載内容については後日データを送付しますのでご確認ください。
- ・会場はふれあいルーム (校舎A棟2階の多目的室) を準備しておきます。
 - 大型液晶2台、ホワイトボードの用意はできます。

○第1校時は3月3日(金)にお願したいと思いますが、難しいようでしたら6日(月)の時も調整可能です。

* 連携シートの半面には、第2章でふれた、資質・能力についての連携事項が記載されています

連携シートを活用するにあたって

対面やオンライン、電話で打ち合わせをする際に、この紙を印刷したり、データを直接編集してもらったりして、記録しています。特に、実施の流れや内容の詳細を確認するために、打ち合わせ内容を企業側に事前にメールなどで送っておくと、より効率よく連携ができます。また、企業によっては、学習単元の教科書の該当ページを共有しておく、その学習内容に沿った当日資料を作成してくれるところもあるので、連携の中で、教科書と連携シートを照らし合わせながら行うこともおすすめです。

第4章 資質・能力の向上を目指した各校独自の取組

この章では、資質・能力の向上を目指して、各校の独自性を出した取組を紹介します。どの取組にも、最終的な学習のゴールに「自己表現力」に関わる活動が仕込まれており、「発表形式」「レポート・作品形式」「授業の中でのペア・グループでの討議・意見交流」など、様々な手法が用いられています。ここでは、イチオシのみ紹介します。

○ 常金丸小学校の取組

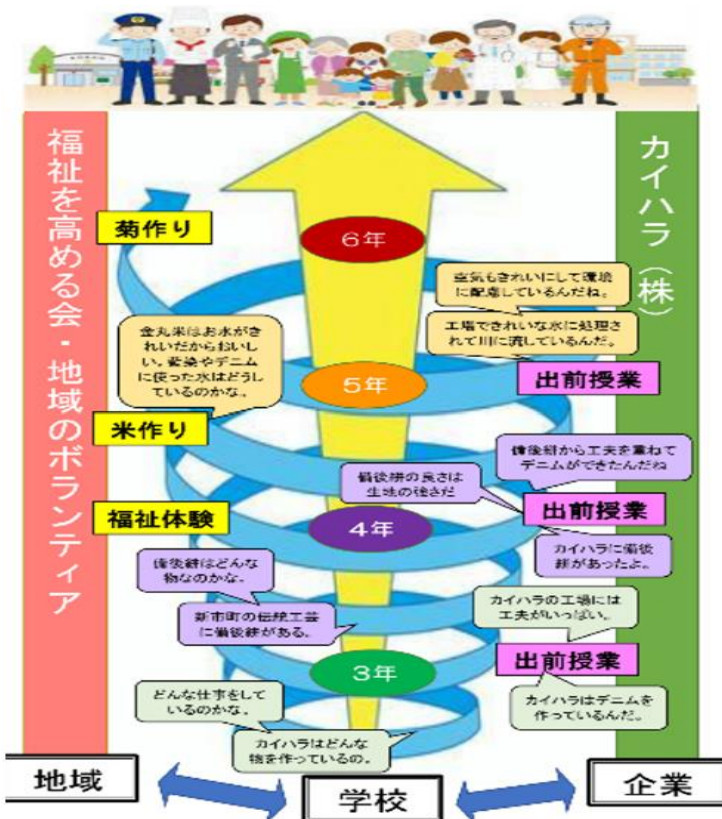
(1) 独自の取組一覧とイチオシの実践の概要

形態	学年	学校独自の取組
複数教科	3・4・5	☆学年で視点を変えて学ぶ地元企業 カイハラ(株)の出前授業
複数教科	4・5・6	福祉・米づくり・菊づくり

☆学年で視点を変えて学ぶ地元企業 カイハラ(株)の出前授業

- 校内研修の実施(4月)
 - 伝統工芸『備後緋』から始まったカイハラの歴史
 - SDGsの観点でのカイハラでの取組
- 出前授業の系統的な視点と企業【カイハラ(株)】との連携
 - 3年・・・工場の仕事
 - 4年・・・伝統工芸『備後緋』
 - 5年・・・SDGsへの取組
- 出前授業の実施 <講師・・・(カイハラ(株))>
 - 3年 7月 「工場の仕事 ～カイハラのひみつ～」
 - 4年 11月 「伝統工芸のよさを伝えよう」
 - 5年 12月 「地域の環境と米作り」

* 独自の取組の構図



(2) 独自の取組の様子

地元のカイハラ工場があることは知っているけど、どんな物を作っているのか知らない児童がほとんどだった。出前授業で、昔から作られていた備後緋を藍で染めていたことからデニムの染色が始まったことを教えてもらい、地元にある企業に関心を持つことができた。出前授業後に実施したカイハラ三和工場の見学では海外で輸入した花から糸を作り、どのようにしてデニムになるのかを実際に見ることができた。単元のまとめとして「カイハラ新聞」を書いて、カイハラ工場の秘密をまとめた。

3年出前授業【工場の仕事】

- 工場の仕事
- 紡績～染色～織機～検品～出荷までの行程
- カイハラ工場デニムの特徴



カイハラ常金丸工場での藍染体験



この綿からデニムができるんだ。

カイハラ三和工場

4年出前授業【伝統工芸】

- 備後緋とはどのような物か
- 備後緋のよさ
- カイハラ(株)の歴史～備後緋からデニムづくりへ～



備後緋の色や柄も変わっているけれど、がだんだん柔らかくなっている。



こんなに引っ張っても破れないデニムは備後緋の生地が強さと一緒だね。

実際に備後緋に触らせていただいたことで、備後緋とは何か、その良さとは何かだけでなく、生地が進化していく過程も実感することができた。また、カイハラ(株)の歴史も知ることで、カイハラ(株)が備後緋を作る技術をデニム作りに生かして会社の危機を乗り越えた企業の努力を知り、考え工夫しチャレンジすることの大切さを学ぶことができた。単元のまとめとして、3年生に伝統工芸のよさを紹介するために、タブレットでスライドを使って伝統工芸の宣伝を作ったり、リーフレットで伝統工芸のよさをまとめたりした。さらに社会科でも「広島県」カルタを作り、多様な表現方法で取組むことができた。

5年出前授業【環境】

- カイハラのデニムの作り方
- 工場を使った水や空気をきれいにする取組
- 地域に貢献するための企業の取組



水質調査

田植え体験

稲刈り体験

米作りを通して常金丸の川の水質がきれいだというのに気付いたことで、地域の環境問題や、取組に目を向けることができた。また、カイハラ(株)のデニム作りや、藍染で染めた水を独自の方法できれいに川に戻す取組など、素晴らしい技術をもった企業が地元にあることを知り、自分たちの町に誇りをもつことができた。地域の企業の取組を知ったことで、同じ地域に住む一員として、自分達に何ができるか、どんな役割を担うことができるか考えることにつながった。



3・4・5学年の3つの学年でタテの系統性をもたせる出前授業の良さ

同じ会社でも「工場の仕事」「伝統工芸」「環境」というそれぞれの視点で、本物に触れることで、自分たちの身近なものがどのようにできているのか、どんな違いがあるのかを実感できる。また、「自己理解力」の向上へ向けて、発達段階に応じて、自分の将来や夢のために必要なことや、学習内容と将来のつながりについて話してもらうことができる。

(3) 独自の取組による効果や児童の姿

3年生の出前授業の事後活動

4年生の出前授業の事後活動

【チャレンジ&チェンジする力の姿】

- 最後までやりきった
- 次の学年への見通しを持てた

【自己表現力の姿】

- お互いの表現に刺激され、表現することに意欲を持てた
- 学習したことを伝える達成感を持てた

【全体を通じて】学習して作成した成果物(3年生が作った「新聞」と4年生が作った「リーフレット」)を紹介する機会を設けたことで、学習したことを伝えたいという意欲や、表現活動に対する達成感を持つことができた。また、最後までやり切る経験を積めたり、次の学年への見通しを持つことができたこと、チャレンジ&チェンジする力の向上にもつながる取組となった。

○ 網引小学校の取組

(1) 独自の取組一覧とイチオシの実践の概要

形態	学年	学校独自の取組
家庭学習	全学年	☆ 「わくわく学習」で自己表現
行事	5・6年	☆地域社会とつながる週末の自主的な学び「わくわく学習」
総合	6年	まちづくり推進委員会と連携した「地域の小字名看板づくり」
行事・授業	全体	SDGs11「住み続けられる街づくりを」

☆地域社会とつながる週末の自主的な学び
「わくわく学習」+「わくわく学習で自己表現」

①「わくわく学習」概要

週末の自主的な学び「わくわく学習」。子どもたちの学びは、実に多様である。その「学び」の対象は、学区の「自然」・「文化」・「産業」など身の回りのあらゆるものがその対象となっている。



check 取組を
みんなに見て
もらう工夫

網引小学校では、
児童が自分の作品を
自由に掲示できるスペ
ースを設けています。
みんなに頑張りを見て
もらえることがモチベ
ーションを高め、児童
のチャレンジ&チェン
ジする力の向上にもつ
ながっています。

提出率が高い
秘密は…

この学習は、強制ではないため、自分がや
ろうと思った時にチャレンジしていくと
いうやり方で行ってきている。しかしな
がら、学校全体の平均の提出率は、
80.8%。多くの児童が意欲的に取り組む
ことができている。

②「わくわく学習で自己表現」概要

5年生1名、6年生2名の児童が発表。コロナ感染症対策のために、リモ
ートでの発表となった。

○5年生児童テーマ 「世界遺産を調べる」

○6年生児童 A テーマ「プログラミング学習でゲームを作った」

○6年生児童 B テーマ「大森公園の『ストップ』マークづくり」

(2) 独自の取組の様子

「わくわく学習」

ア：地域の「文化」を学習教材として
4年生「みなさん、箱田良助さんを知っていますか？」
イ：地域の「自然」を学習教材として 5年生「迷子のハト」
ウ：地域の「産業」を学習教材として
5年生 「富田久三郎について」

網引小学校ニュース NEWS



“富田久三郎について”
2022年6月2日

5年生の [] は、
総合的な学習の時間で習っている「備後餅」
について、わくわく学習でも調べています。
まずは、[]さんが描いた「備後餅」の生み
の親である「富田久三郎」の似顔絵です。
“富田久三郎”は医師の富田又右衛門の二男と
して福山市芦田町に生まれました。

2枚目は、[]です。「備後餅」は、伊
予餅、久留米餅とともに日本三大餅の一つです。

3枚目は、再び []。1846年、久三郎
が18歳の時、阿波（今の徳島県）の技術を、
当時神辺や福山方面で作られていた木綿織物に
応用することを思いつき、「備後餅」が生まれた
そうです。

最後は、[]。「備後餅」は広巾の織機
を使っていることが特徴の一つだそうです。広
巾とは、布地の幅の広い織物のことです。地域
の主要な産業の歴史を知ることが、今の新市を
知ることに繋がります。しっかり学んでいき
ましょう。

(3) 独自の取組による効果や児童の姿

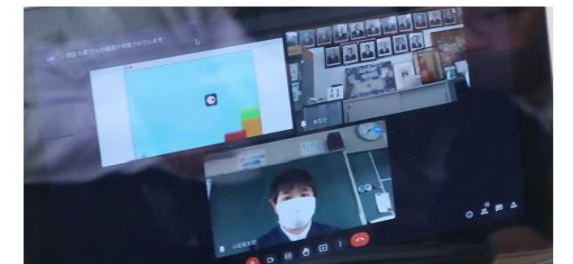
【全体を通じて】

「自分が頑張って調べたことを発表することがで
きて良かった」「次の発表は今よりもっと良くなる
ために頑張りたい」「自分の興味を認められた達成
感」などの感想を持ち、チャレンジ&チェンジする
力、自己理解力、自己表現力の向上のきっかけにな
りました。今後も児童会との連携の中で、継続して
行いたいと考えています。



「世界遺産を調べる」

自分が頑張って調べてまとめたものを発表でき
てよかったと思う。自分としては少し声が小さか
ったかなとも思うけど、発表したことが自信にな
りました。今度発表する時は、実際にみんなの前
で堂々と発表したいと思います。



「プログラミング」学習でゲームを作った

やってよかったと思っています。なぜなら、発表
の後、廊下を歩いていたら、『〇〇くん、ゲーム
楽しかったよ』とたくさんの人に声をかけても
らったからです。とにかくうれしかったです。は
ずかしいなあという思いも最初はあったけど、
いい経験ができたと思っています。

「わくわく学習」で「自己表現」



「大森公園の『ストップマーク』づくり

2学期終業式の児童発表の中で実施しました。児童は自分
の興味・関心を様々な手法で、堂々と発表しました。

○ 新市小学校の取組

(1) 独自の取組一覧とイチオシの実践の概要

形態	学年	学校独自の取組
特活・研修	全学年	キャリアログふりかえりシートの作成・実施
授業・研修	全学年	教科と資質・能力を関連させたルーブリックの作成・活用
授業	授業	☆地域企業と連携したチャレンジ授業の実施

①概要（2021年：6年生、2022年：3年生の算数にて2021年

「図形の拡大と縮小」で建築会社の方が「仕事でどのように拡大・縮小の考えを活かしているのか」という出前授業を取り入れました。建物を作る時に縮尺を活かして、図面を描いたり、模型を作ったりするなど、具体的にどんな力が必要なのかを教えてもらいました。

2022年

地域の土地家屋調査士の方に来ていただき、長さを測ることが仕事や生活でどのように使われているのか話を聞いた。また、測量機器では勝った正確な長さに巻き尺などを使って正確に測ることにチャレンジしました。

*3年生「長さ」における「チャレンジ授業」の単元計画

時	学習活動 ○主な活動・◎資質・能力に係る活動 「」予想される児童の発言・行動	指導上の留意点 ☆評価規準【身に付ける資質・能力】
1	○長いものの長さの測定に関心を持ち、測り方を考える。 ◎どのような方法で教室の長さを測ることができるのかを考え、挑戦する。 「巻き尺・1mものさし・紙テープ・ものさし」	・様々な方法を考えさせ、実際に経験することを通して、それぞれの方法の長所短所を考える。 ☆既習を生かしながら教室の長さの測り方を考えている。【思/チャ】 ☆様々な方法にあきらめずに長さ測定に取り組もうとしている。【主/チャ】
2	○巻き尺の仕組みや長さを測る方法を理解し、長さの感覚を持つ。 ◎物差しとの違いを考え、巻き尺の長さ（価値）について理解する。	・巻き尺とものさしの相違点を話し合い、巻き尺を使うと有効な場面を考える。 ☆ものさしとの違いを積極的に探している。【主/チャ】 ☆測定するものから見当をつけ、巻き尺を使う場面や使用方法などを理解して長さを測定している。【知/自理】
3	○巻き尺を使って、まるいものや身の回りのものの長さを測定する。 ◎巻き尺を使って色々なものの長さを測ってみよう。	・木の幹の太さなど巻き尺で測るときに気を付けることを考える。 ☆巻き尺の使い方の気を付けることを考えている。【思/チャ】 ☆協力して巻き尺を使って様々なものを測っている。【主/チャ】
4	○道のり、距離の意味や長さの単位「km」を理解し、「km」を用いて長さを表すことができる。 ◎「絵地図を使った問題作りをしよう。」	・登場人物を設定し、回答者が楽しめる問題作りをするように示す。 ☆長さの単位、単位時間の関係（1km=1000m）を理解している。【知/自理】 ☆絵地図を元に、問題と解答を作成している。【知/自表】 ☆作った問題を紹介している。【思/自表】
5	○たしかめポイントに取り組み学習内容の理解を確認する。	・出来た問題と出来なかった問題を自己分析する。 ☆自分の出来る問題と出来ない問題を確認する。【知/自理】 ☆大切なポイントや出来なかった理由を探す。【主/自理】
6（本時）	○土地家屋調査士さんの話を聞いて測ることの大切さや、どんなことに役に立つのかを知る。	・測定器を使った長さ当てクイズを行い、巻き尺でミリ単位まで測定することを通して、難しいことにチャレンジする。 ☆長さの学習が将来に繋がっていることに気付く。【主/自理】
7		☆測定器が測る長さを巻き尺を使って測定することでより正確に測定しようとすることに挑もうとする。【主/チャ】
8	○評価問題・評価アンケートを行う。	*別紙評価問題とレディネスキャリアアンケートを行う。

(2) 独自の取組の様子

6年生算数：2021

6年生算数科「拡大図と縮図」

SOW建築事務所 出前授業

6年生 図画工作科「ドリームプラン」 未来の新市を考え、模型をつくる。

3年生算数：2022

< 1回目授業 >
測量の仕事についてと歩幅を使っておよその距離を測る活動



< 2回目授業 >
測量機器で測った長さを巻き尺を使って測る。(測量機器にチャレンジ)



< 3回目授業 >
どうすれば正確に測ることができるのか、振り返り、改善策を考えてチャレンジする。



(3) 独自の取組による効果や児童の姿

【全体を通じて】

2021年の実践のように、図画工作の授業との関連を図った、教科横断的な学習の実践につながったり、2022年の実践のように、同企業の複数回の実施により児童のPDCAを回しながら学習を行ったりするなど、出前授業の取組をより深化させた取組を実践することができるようになってきました。児童もそうした活動により、「チャレンジ&チェンジする力」や「自己理解力」の向上につながる姿がみられるようになってきました。

校舎の実際の高さを測ったりするなどの活動を通して、算数の学習が建築の仕事に生かされることが分かり、「将来、建築の仕事をしてみたい」という感想を持った児童もいた。

1回目の授業での児童の声
⇒長さを測る機械があると便利。歩幅で測れることを初めて知った。

2回目の授業での児童の声
⇒「測量士に事前にグラウンドの長さを測定してもらっていた」

3回目の授業での児童の声
⇒「どうすれば上手く測れるか考えてから測定を行った。」
…作戦通り、巻き尺をゆるまないようにすること

児童は「初めて知る事」「難しさを感じたこと」をふまえ、試行錯誤しながらよりよい測定方法を考えるなど、チャレンジ&チェンジする力の向上につながる姿を見ることができました。

○ 戸手小学校の取組

(1) 独自の取組一覧とイチオシの実践の概要

形態	学年	学校独自の取組
総合・国語	6	☆単元のストーリーの中に外部企業との連携を継続的に仕組む「未来につなぐ、戸手カルタプロジェクト」
総合・社会	5	TDGs大作戦（連携企業：くら寿司）
総合	6	人生の先輩から学び、自己の生き方を見つめる「県立高等学校生徒との交流」
授業・特活・研修	全学年	資質・能力／アンケート結果の共有
授業・行事・特活	全学年	キャリアログ・全学年共通「行事」振り返りシートの活用

☆「未来につなぐ戸手カルタプロジェクト」

- R3年度の6年生のプロジェクトから引き継いだものを確認。
- R4年度の6年生も、会社経営者・モノ作りのプロフェッショナルから、仕事について・モノ作りの手順・モノ作りに込める思い等、仕事の本質を学ぶ。
- <5月 プロフェッショナルから学ぶ>
- 商品販売に向けて計画を立てる。
- <6月～10月 地域・学校・卒業生・企業と自分をつなぐ>
- 「カルタ」を製作・販売するために、会社を設立。
「読み札検討部」「絵札検討部」「かぶり防止部」「バランスチェック部」「何じゃこりゃ部」「説明書・箱デザイン部」「経理部」「宣伝部」各部署を立ち上げ、活動。
- 資金について経理部が中心となりPTAからの支援を受ける。
- 活動の際、随時企業の方にも参加していただき、アドバイスしてもらう「レベルアップタイム」を設定。
- <11月～12月 試作品作り>
- 「私達が（地域の）未来に残すべきものは？」の本質的な問いに常に立ち戻り、学習活動の拡散・収束・修正を行う。
- 各部署で連携し、試作品を作成し、印刷会社と打ち合わせをしたり連携を図ったりする。
- <1月～販売に向けて（予定）>
- 宣伝広報活動を行い、販売に向けて活動。

学校の出来事や転換をきっかけに、数年にまたがる「探究活動」へ

戸手小学校ではR4年度より新校舎での生活が始まりました。R3年度6年生の「旧校舎で生活する最後の年に、卒業生として地域に“何か”を形として残したい」という思いや願いのもと、活動を展開しました。在校生・卒業生・地域の方の思いをつなぎ、形として残すために「カルタ」を製作、販売するという企画を立てました。そのためにモノ作りをする地域企業と連携し、モノ作り・販売のノウハウを学びました。コロナ禍のため、進行が困難なこともありましたが、次年度の6年生へとプロジェクトを受け継ぎ、活動を継続しました。このように、年度を越えて、活動を少しずつ受け継ぐ形のプロジェクト進行という探究学習の形もあります。



(2) 独自の取組の様子

<児童の振り返り>
今日、企業の方の話を聞いて、「仕事」とは、人の悩みや困っていることを改善して人を幸せにすることなのだと思います。

<児童の振り返り>
商品を開発する中で大事なことは、コンセプトとデザインだということが分かり、もっとターゲットをしばって、コンセプトを明確にしないとイケないと思いました。

6年生「総合的学習の時間」レベルアップカード

＜テーマ＞ 未来へつなぐ戸手カルタプロジェクト

レベルアップすること

レベル	レベルアップすること	達成状況
レベル3	自分だけの力で、自分達ができることを考えよう。（チャレンジする力）	
レベル2	自分達ができることを考え、挑戦しよう。（チャレンジする力）	
レベル1	自分達ができることを考えよう。（チャレンジする力）	

こんな力がついた！

今できていること	これからすること	ついた力
同僚者の完成	同僚者の完成	みんなと意見
100円・15	100円に	考える力、自分
くらい終わ	なるように	意見と比べ
た		わかる力

本時のめあてのルーブリックを児童と共有してから活動スタート！振り返りは、KWLHチャートで。

(3) 独自の取組による効果や児童の姿

本時の評価規準

旧校舎に関わった人やモノ作りのプロフェッショナルの方との関わりを通して、自分たちができていることを考えたり、改善策を考えて伝えることができている。

	レベル A	レベル B	レベル C
チャレンジ・チェンジ 思考・判断・表現	自ら企業の方にアドバイスを聞いて、自分たちができていることや改善策を考えたり、取組を再構成したり、することができる。	友達と話し合いながら、自分たちができていることや改善策を考えたり、することができる。	各部の取組の改善策を考えることができていない。
子どもの姿の具体と支援	【経理部】 ・コトブキ印刷さんに聞いて、原価が1700円だから、1800円で販売しよう。	・みんなで決めた1200円くらいでいいかな。でも、原価が高いからもう少し高くして、1500円で200個にしよう。	・原価が高いから、どうしようかな。 ↑【Cの児童への支援】 ・友達やコトブキ印刷さんに声をかけてみんなで考えられるようにする。
	【商品開発部】 ・旧校舎で過ごした日常の思い出を再構成して、2つ以上入れる。	・読み札を再構成することができる。	・どの読み札を再構成するか分からない。 ↑【Cの児童への支援】 ・アンケートを基にキーワードを見つけて考えさせる。 ・友達やコトブキ印刷さんに声をかけてみんなで考えられるようにする。
	【アンケート部】 ・買ってくれる人をより多くするために、宣伝方法を2つ以上考えている。	・買ってくれる人をより多くするために、宣伝方法を考えている。	・買ってくれる人をより多くするために、宣伝方法を考えることができていない。

【全体を通じて】戸手小学校では、6年生の本プログラムにおいて、「チャレンジ&チェンジする力」を重点にあげ、ルーブリックを作成しました。授業初めに児童と共有することで、教師の「改善策をしっかりと出すための話し合いをしよう」という声掛けや、児童の「コンセプトをよりよくするためターゲットの設定が大切」「企業の方に質問する中でたくさんの改善点が見えた」と振り返る姿がありました。ルーブリックを作成・共有することで、教師も児童も資質・能力を意識した授業になりました。

3つの資質・能力を総合的に育成していく探究活動に！



カルタのデザインを担当していて、同じ担当の子と色々な候補がある中で、どれがいいかを話し合ったり、他の担当の子たちと話すことができ、話し合う力が付いたと思う。自分から積極的に行動することは得意じゃないけど、自分から他の担当の子に聞きに行ってみたりなど、自分から動いて活動することができるようになった。

チャレンジ&チェンジする力の向上

今している学習や友達とのつながりを大切にすることで、自分の可能性の幅を広げることができると考えた。

自己理解力の向上

☆どんな時にも相手の考えを聞くこと、自分の考えを伝えることで、よりよい商品づくりができるなど、よい方向に向かうことが分かった。勉強や友達との関わりの中で自分の考えを伝えていきたい。

自己表現力の向上

○ 新市中央中学校の取組

(1) 独自の取組一覧とイチオシの実践の概要

形態	学年	学校独自の取組
特活・行事	全学年	新市中央中学校版キャリアパスポートの作成と活用
特活・総合	2年	☆「新市版企業探究学習」の実施
総合・社会	3年	高校と連携した、自己表現力・将来設計に関わる出前講座／探究テーマに関する討論会（社会科）
職員研修	職員	資質・能力を相互参観授業での評価の視点として取り入れる。
職員研修	職員	「自己表現力」を単元のまとめに位置づけた授業改善

☆「新市版企業探究学習」

- (1) 実施学年：2年生 約30～35名程度×4クラス
- (2) 教科等：総合的な学習の時間、特活（行事）、夏休み
- (3) 実施期間 5月～12月（40時間程度）
- (4) 地元企業8社+1団体の計9事業所と連携（2022年度）

スケジュール	
2月～4月	企業連携・発掘／ワークブックづくり
5・6月	チーム作り／企業エントリー新人研修（調査）
6月	マーケティング（街頭調査）
7月	調査報告／実際の仕事（職業講話）
8月	企業訪問（希望者のみ）
9月	ミッションに対する企画
10・11月	中間報告・企画の練り直し
12月	最終報告会



これまでのプログラムをブラッシュアップ！

これまでのプログラムは・・・

教育と探求社（株）が提供する教育プログラムで大手企業6社の研修やミッション（全35時間）

企業について知る（視聴覚資料）

企業についてのアンケート調査

企業のミッションを考える

各種報告会をする

生徒たちは意欲的に取り組んでいるが・・・

①肝心の企業側のアドバイスをもらう機会が非常に少なく（基本発表のみ）。発表や調査の改善の視点が、教員や生徒によるものになってしまう。

②①により、ミッションに対する企画も創意工夫はあるが、身近な地域の産業や実際の会社の姿をイメージしながら取り組めていない。

③教材や実施順番の柔軟性がない。

④実際に足を運んで、担当する企業の商品やサービス、働いている人たちのリアルな姿を見ることができないため、「職業観の育成」という部分で効果が十分ではない。

⑤本校区で育てたい、資質・能力の共有が難しく、指導助言の際も、資質・能力をふまえた助言やアドバイスをもらいづらい（企画の中身がメインになってしまう）

(2) 独自の取組の様子

【Section 1】探究活動のチーム作りと担当企業について調べる活動
 【Section 2】街頭アンケートや企業の方による講話の中で、地域や事業所の方の話の中で、担当企業への理解を深めたり、「仕事とは何か」を考えたりする活動
 【Section 3・4】積み上げてきたことなどを踏まえ、企画会議・発表を行いながら、最終的な企画案を考えていく



2022年度に企業から与えられたミッション

ソフトガーデン産香
 どのようにしたら、気軽に一人でも多くのお客様（特に20代～40代）にご来店してもらうことができるか、方法・工夫を提案せよ！
 寺岡記念病院
 「少子高齢化」「医療人材不足」が加速する中、「新市」に求められる「新しい病院」を提案せよ！
 土井木工
 価格が安い海外製品と「差別化」できる「日本の家具メーカー」ならではの戦略を提案せよ！
 HITOTOITO
 みんなが「働きたくなる」ような全く新しい工場を構想（提案）せよ！
 ニチマン
 「心地よい」「広島」「サステイナブル」をテーマにスニーカーをデザインせよ！
 声品トヨペット
 同業種と差別化できるように、当社に特化した画期的なSNSの発信方法を提案せよ！
 朝日倉庫
 発展し続ける「快適な暮らし」を支える、これからの時代にふさわしい新たな物流サービスを提案せよ！
 浅野味噌
 府中市の名産「府中味噌」を世界に広めるために「新しいお味噌の価値」を考えよう！
 タカノ食品
 「もっとおいしく」「もっと楽しい」食を提供するために食品値上げをしない方法を提案せよ！

ミッションの「」のキーワードと「考えるヒント」をもとに、ミッションを提示（例：タカノ食品）

タカノ食品のミッション
 「もっとおいしく」「もっと楽しい」食を提供するために食品値上げをしない方法を提案せよ！
 ミッションを考えるヒント
 原材料費の高騰、人件費の高騰、原油価格の上昇により、物価の上昇が続いています。「もっとおいしく」「もっと楽しい」食を提供するためにも、食品の値上げを検討せざるを得ない状況です。どのようなことをしたら、食品の値上げをせずに、お客さまの望む価格で提供できるかを考えてください。

生徒たちが考えた企画案（例：タカノ食品）

- 「世代」に合わせた食品アレンジや商品の提供
- 「リサイクルパック・リサイクルボックス」の活用
- 形や大きさの悪い牡蠣を使った「揚げ物に合うソース」とパッケージコスト削減の代替案
- 「容器リサイクル」とクーポン利用の推進

(3) 独自の取組による効果や生徒の姿

【全体を通じて】
 各種活動における目標設定や振り返りをしっかり行うこと、発表や活動の様子を企業の人にアドバイスをもらうことで「チャレンジ&チェンジする力」の育成を。実際の職場の様子や働く上で大切なことなど、「職業観」に関わる講話や見学の場を設定してもらうことで、「自己理解力」の育成を。各活動の最後に表現活動を取り入れ、その表現活動の場面で企業の方に積極的に足を運んでもらい、評価してもらうことで、「第三者へ伝えるにはどうしたらわかりやすいか」という、「自己表現力」の育成を図りました。こうした企業との関わりを通じ、4つのセクションの中で、3つの資質・能力を往還する実践となり、これまでの実践より、より身近で、中身の濃い内容へと変化させることができました。

生徒の単元の最終のコメント

成長の兆しが見えるコメント

【チャレンジ&チェンジの向上をみとれるコメント】より良い方法を考え取り組んだことは、他のクラスの自分と同じチームの中間報告を見て自分のチームの中間報告の改善点を把握して最終報告に向けて改善したことです。

【自己理解力の向上をみとれるコメント】この探究学習で学んだことや、自分たちで考えて行ったことは将来必ず役に立つことなので一つ一つ大切にしながら活動しました。活動の中で、自分の得意なことや苦手なことが見えてきたのでこれで終わりではなく、次につなげていこうと思います。

【自己表現力の向上をみとれるコメント】チームで意見を交流しているときや自分の意見を相手に伝えるときに根拠をもって話す事ができるようになりました。他にも場に応じて言葉遣いに気をつけることが、よりできるようになったので日々の生活に活かしていきます。

次年度へ向けて生徒が考える本事業の改善点

来年度の2年生に向けてのアドバイスはあります。12月は、計画を立てて作業することです。急ぎ、時間があふれるか心配な点。悪い状況があるか心配な点と事前に考えておくこと。また、2月には、スピーチを上手に上手に話すことが大切です。3月には、発表の時に、自分の得意な点や、自分たちの強みなどを、発表の時に、上手に発表することです。発表の時に、自分の得意な点や、自分たちの強みなどを、発表の時に、上手に発表することです。

目標や改善点を設定することや、よりよい自己表現の方法を考えることの重要性を感じたり、自分の将来につなげたいという思いをもったりする生徒が多くなりました。また、次年度へ向けた下級生へのアドバイスとして、「計画の大切さ」「表現の際の注意点」など、「資質・能力」に関するコメントも見られました。

企業・教員の最終のコメント

企業の事後アンケート

肯定的評価は多かったが・・・

「連携の回数が多く大変」「作成した資料が狙い（に沿ったものになったか）分からない」「プレゼンの根拠が不十分」「もっと良い伝え方をするために、見せ方や姿勢の部分をもっと改善してほしい」という意見も

企業・生徒にとってWinWinの活動になるよう、実施方法や教職員の連携も含め、さらに改善していく。

チームによっては企業の方と交流する（報告を見てもらう）機会がほほえないところがあり、「アドバイスをもらいたかった」と言っていた生徒もいたため、難しいとは思いますが、もう少し企業の方と交流できる場面があるとより良くなるのかなと思いました。

1・2年目は企業の方も悩みながらの取組となりましたが、発表会や企画会議の場で一緒に活動することで、「一生懸命取り組み成長していく生徒の姿に刺激を受けた」「企業側にとっても勉強になった」「発表時に全員が発言する機会があるのは、今後人前で話す練習になるため良かった」というコメントをもらいました。生徒の表現力の向上や企業とのスムーズな連携につながるよう、企業側のコメントや生徒・教職員の感想を踏まえ、さらに改善を図っていきます。

第5章 地域企業等での職場体験活動

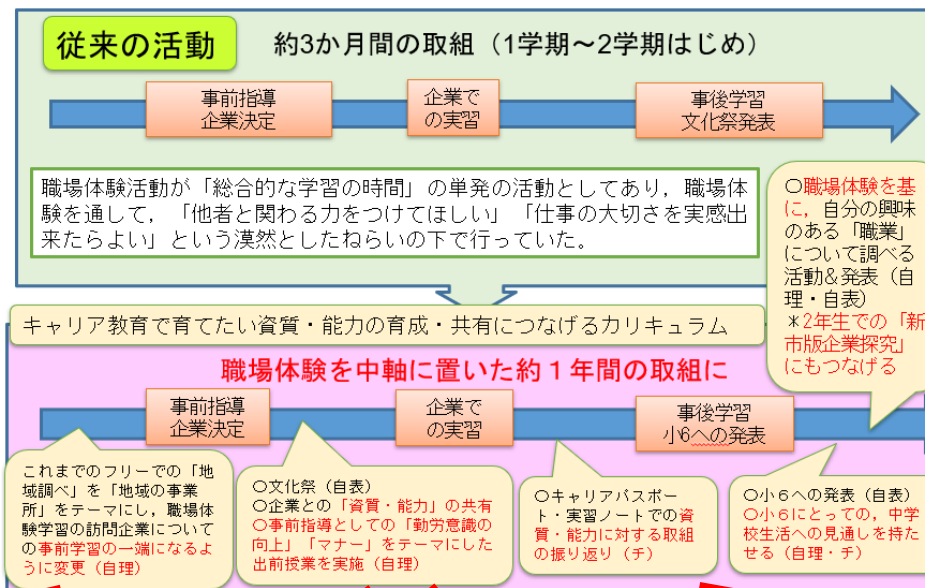
この章では、資質・能力の向上を目指した体験活動「職場体験活動」の取組を紹介し、実際の企業と関わり、職業について体験し、深く考えていくことができる職場体験活動は、キャリア教育において、非常に重要な取組になるものです。しかし、これまでの取組では、職場体験活動が「総合的な学習の時間」の単発の活動としてあり、職場体験活動を通して、「他者と関わる力をつけてほしい」「仕事の大切さを実感出来たらよい」という漠然としたねらいの下で行って来ました。そこで、キャリア教育の視点に立ち、新市中央中学校区でつきたい資質・能力を意識しながら事前・事後指導、企業との連携を行うことで、生徒に身につけさせたい力を具体的にイメージして取り組むことができるように、職場体験活動の取組の見直しと再構築を行いました。

○1節 キャリア教育の視点を取り入れた職場体験活動の概要と改善ポイント

【実施概要】(2022年度)

- ①10月11日～13日の3日間：全59事業所で実施
- ②資質・能力を企業・生徒と共有するための「手引き」作成・連携シートの実施
- ③資質・能力の育成を意識した事前指導・事後指導の充実

図：従来の活動と、資質・能力を意識した職場体験活動の比較



スケジュール	
4～7月	地域企業に出ることを踏まえた「地域職業調べ」(総合)
6～8月	企業連携・発掘/手引きの作成 企業分担/事前指導の計画
9月	手引きに基づいた事前指導
10月	職場体験
10月～12月	調査報告/実際の仕事(職業人講話)
1月	小学校への報告会



改善ポイント5 「自己表現力」の向上を意識した事後指導

職場体験活動の事後指導として、「小学6年生へ学んだことを伝える」をテーマに、職場体験活動の報告会を行いました。クラスでの発表、小学6年生への発表を通じ、1年間の自分の成長を振り返ったり、学んだ表現スキルをフル活用したりして堂々と発表していました。また、小学6年生への連携は、次年度の活動に対してイメージを持たせることにもつながり、小中連携の視点からも非常に有意義な交流会となりました。



○小学校で、いつもは違う人に見られる機会を設けてくださったから、初めて私の発表を聞く人の前でも、落ち着いて発表することが、わかりやすいようにスライドをつくる力が身についたと思った。
○私は、発表の時スライドばかり見て、相手を見ずに発表してしまっ。次からは、発表の内容をできるだけ覚えて相手の目を見てしっかりと発表しようと思います。

改善ポイント4 企業との事前連携における資質・能力の共有

①企業との打ち合わせ資料への工夫

<声かけの例>

- 「チャレンジ・ウィークに当たって、どんな目標設定をしたの?」
 - 「今日は、その目標に対してどうだった?」
 - 「目標達成に向けて、どう改善していく?」
 - 「その目標に対して、〇〇の部分でよく頑張っていたよ!」
 - 「今日は、自分の考えていることや思っていることを、きちんと表現できた?」
 - 「〇〇の部分改善すると、もっと伝わるよ!」
 - 「その言い方だとわかりにくいよ。〇〇の部分意識して、言い直してごらん。」など
- * 声かけが難しい場合は、実習ノートの「活動日誌」の一言欄への記入でも構いません。ご協力よろしくお願いいたします。

資質・能力は、企業の方にはすぐにはピンときません。そのため、資質・能力が発揮されている具体的な姿が、どのような姿かを例示し、事前指導の段階で伝えました。

②活動日誌で資質・能力を意識した振り返りとコメント

今日の目標： 前回の話し、改善点を学んで意識し、行事にむく。

活動場所	活動時間	活動内容	活動の反省
企業訪問	10:00 - 16:00	工場見学、説明、体験	15分間の動画を観て感じたこと、思っより早くしてしまっ、もも時間の余裕がなかったこと。
一日の感想		今日の活動の中で、生徒にアドバイスしたり、大切にしたいと思ったことに気づいた(資質・能力)は? P2の表の下の表を参考に □つなげる力 □チャレンジ&チェンジする力(課題解決力) □自己理解力 □自己表現力 今日の活動を振り返り、自分と意識してはいる? 振り返って構いません 全てを覚えているので、もう一度、みんなの話を聞いてみよう!	

活動の中で、生徒と企業の人が見るの「活動日誌」のページです。そこに、資質・能力の視点で活動を振り返られるようにページを工夫したことで、つきたい力を意識した評価を行うことができました。

改善ポイント1 事前指導としての「地域学習」

職場体験活動に取り組む上で、実際に行くことになる職場やその職場のある地域の実態をしっかり理解しておくことで、活動内容やそこでつける事ができる力が何なのかが明確になります。これまで1学年の総合的な学習の時間に単発で行っていた「地域学習」のテーマの中心に「地域の産業」をおくことで、職場体験活動とのリンクを図る活動になるようにしました。

また、地域学習の内容はクラスや文化祭で発表する活動を仕組むことによって、自己表現力の向上にもつながるようにしました。



文化祭発表

改善ポイント2 資質・能力を意識できる実習ノートの改良

職場体験活動の中で生徒たちが最も使う実習ノートには、資質・能力を意識して活動できるように、活動のねらいや目標設定の場面で、資質・能力を具体的に発揮する姿を文章やルーブリックで示したり、生徒たちに考えさせたりしました。

資質・能力に沿ったルーブリックと振り返り

改善ポイント3 企業の方を活用した事前指導

職場体験活動において、職場体験活動へ向けた心構えや職業観、必要なマナーを身につけるために、「職業意識の向上」「マナー」をテーマに出前授業を実施しました。企業との連携の際に、資質・能力を共有することで、テーマについての話だけでなく、将来設計などについての職業人講話も依頼しやすくなるなど「自己理解力」の向上にもつながる出前授業になりました。

広島県社会保険労務士による「職業意識の向上」をテーマにした出前授業

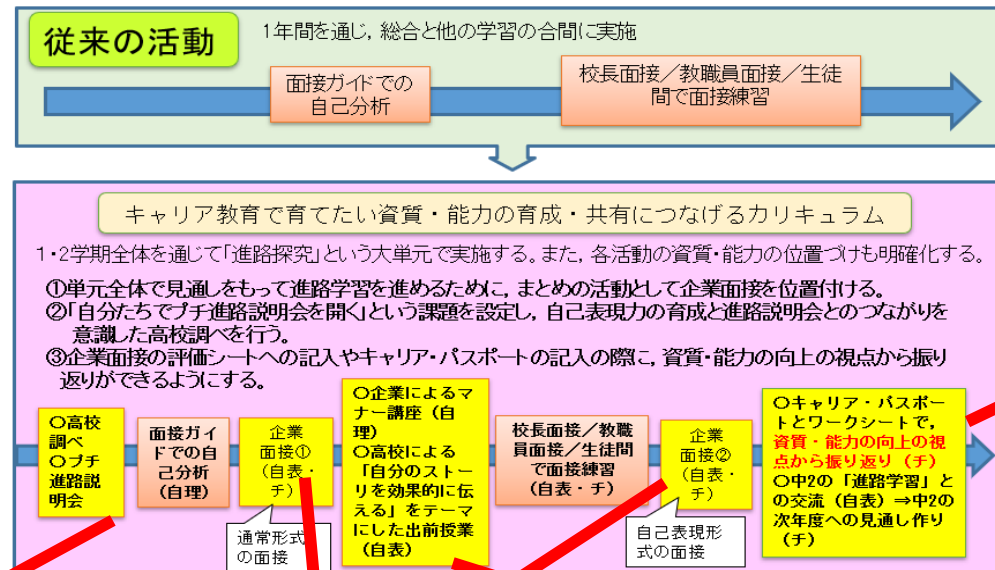
官公学生服による「マナー」をテーマにした出前授業

第6章 企業による面接体験

この章では、資質・能力の向上を目指した「企業による面接体験」の取組を紹介します。進路指導において、これまでも教職員による面接指導は行ってきました。ただ、社会や各企業で求められる資質・能力も様々です。幅広い視点から生徒たちにアドバイスをするには、教職員だけでなく、実社会で活躍する第三者の視点から、生徒の考えや行動にアプローチをかけていくことが大切になってきます。そこで、次のような手順で、これまでの面接体験を見直し、企業や地域人材の力を活用しながらカリキュラム開発に取り組みました。

○1節 企業による面接体験の概要と従来の活動からの改善ポイント

図6：従来の活動と、資質・能力を意識した進路学習との比較



【実施概要】

- ①職場体験で協力していただいた企業・新市ライオンズクラブの協力を得て、全13企業・元校長2名の計15名で実施。
- ②「進路探究」という形式で、単元の中に活動を位置付け、まとめの活動として「企業による面接体験」を実施。

スケジュール	
5・6月	○自分たちで「進路説明会」を実施しよう！(高校調べ) ○自己分析(面接ガイドを使って)
7・8月	○企業面接(通常形式の面接) ○進路説明会/オープンスクール
10月	○自己分析を深める(自己分析内容のどこが自己表現にマッチするか考える)
11月	○マナー講座(菅公学生服) ○「自分のストーリーを効果的に伝える」をテーマにした出前授業(高校の先生) ○自己表現カード作り・自己表現練習
12月	○企業面接(自己表現形式の面接)
3学期	○2年生の進路学習との連携

並行して校長面接を実施

改善ポイント4 事後指導を充実させるための評価シートの工夫

事後指導を充実させる点で一番のポイントとなる、評価シートに工夫を入れました。評価項目は、広島県公立入試の自己表現の評価項目と資質・能力の系統表と照らし合わせながら作成しました。

また、面接の様子を振り返るために、面接の様子はchromebookで撮影し、自分の実際の様子を基に振り返りができるようにしました。

「企業による面接体験」における連携資料(評価シート)より

「資質・能力」と「自己表現」の評価項目を設定

「自分たちのストーリーを効果的に伝える」をテーマにした出前授業

「自己表現カード」の見直し

「マナー講座」

「相互面接練習」

改善ポイント1 事前学習としての「高校調べ」

「進路説明会を開く」をパフォーマンス課題として、高校の特色や魅力を調べる中で、自分たちの進路としてどのような高校があるのか理解を深めたり、発表を通じて、自己表現力の向上を目指したりしました。

各高等学校の魅力や特色が伝わる「高校紹介」を作成し
進路説明会を開催せよ!!

内容	時間
高校調べの導入と計画	1
情報収集を行う	2
プレゼンを作成する	1~2
プレゼンを行う(GW明けを予定) 進路説明会	3

単元名：高校調べ

A: 役割	C: 具体的な能力にたいする目標	D: 目標に対する振り返り
山下 行 福山	高校調べを通じ、自分の進路の道を探る。	高校調べを通じて、自分の進路の道を探る。高校調べを通じて、自分の進路の道を探る。
B: 特に重点を置きたい力(☑を入れる)	自己理解力	自己理解力
☑自己理解力		
☑自己表現力		
E: 「印象に残ったこと」や「うれしかったこと」など		
F: この単元での学びや経験を普段の生活でどう生かすか?		

改善ポイント2 企業面接の流れを伝えるシートを作成

実際に面接をしていく上で、企業との連携は少ないのが実情です。そのため、面接をどのような流れで流し、どのような視点でアドバイスをするかをまとめたシートを作成しました。

通常形式の面接での資料

新市中央中3年生に対する企業面接について
2023(R5).7.19版

- 1 趣旨
高校入試の面接に向けて、教員や保護者ではない、面接のない大人に対して、自分の考えをきちんと伝えることができるようになるために実施する。
- 2 日時
7月19日(金) 10時55分~14時35分
・3.1R 10時55分~11時45分
・3.2R 11時55分~12時45分(昼休憩)
・3.3R 13時45分~14時35分
・3.4R 14時45分~15時35分
- 3 流れ
・50分の授業時間内で、1クラス(32~34人)ずつ実施する。
・面接官が8人なら、1人4~5人を担当する。
・6~7分面接して、3~4分で評価を記入する。その繰り返し。
- 4 面接内容
・基本、面接官にお任せする。
(例) 志望校及び志望理由
高校で頑張ったこと、中学校で頑張ったこと
将来の夢
自分のアピールできること
最近のニュースで気になること 等々
・答えた内容で、引っかかること、さらに聞きたいことがあれば、どんどん掘り下げて質問してください。
・何を言っているのかわからないとき、不十分な答えの際には、遠慮なく、厳しく聞いてください。

自己表現形式の面接での資料

時程	生徒の動き	面接者の動き
朝の10R	①面接シートを配布してもらう ②面接での注意事項を聞く	
授業開始前	①chromebookと自己表現カードを準備する ②1番目・2番目の人は、授業開始3分前には、面接会場外の椅子に着席する(休んでいる生徒の分はあきません)	①午前・午後の部の最初の集まりの際に、注意事項を味方から説明 ②自分の担当する生徒の自己表現カードを受け取り、話す内容のイメージを持つ(休んでいる生徒の分はあきません)
面接開始前 全員共通	①入室し、chromebookを所定の位置に置き、録音ボタンを押して入室準備をする ②待機している人は、静かに面接ガイドや自己表現カードを読む	①生徒が録音ボタンを押しているかどうかを確認する。(押ししていない場合は、生徒に押させてください)
面接中	①入室(1分) 面接官のアナウンスをもとに「受験番号(出席番号)」と「名前」を伝え、許可をもらってから、開始 ②自己表現(5分以内) ・「周りに危害を与えない」「ネット環境を使わないchromebookの使用」の範囲で、必要なものを持参して使用してもよい ③質疑への解答(3分) 計8分間 ・よくわからない場合は、聞き返すようにする ④講評を聞く(2分以内)	①入室後は、「受験番号(出席番号)」「名前」を言われ、着席させてください。 ②自己表現は5分以内ですが、終わりの挨拶が入ってください。 ③自己表現が早く終わっても、合計8分間になるまでは、質疑を継続してください。 ④講評は、できていない所は「できていない」と厳しく言ってもらって構いません。今回は、改善を促すのが一番の目的なので、ポジティブな面は伝えながらも、改善部分はしっかり伝える窓口の担当をお願いいたします。 *数字の評価は、率直なものでかまいません。よろしくお願ひします *コメントの部分は気づけば、メモでも構いません
面接終了後	①chromebookの録音ボタンを押して、撮影を止める ②お礼を言って教室へ戻る ③教室へ戻ったら、動画の振り返りや面接ガイドを記入する	①評価シートをまとめる(2分程度) ②評価シートを書き終えたら、次の順番の生徒を呼んで、chromebookの録音の準備をさせる

改善ポイント3 高校・企業による出前授業

面接活動において、重要なファクターとなるのは表現スキルと自己分析だと思います。それをより深めていくために、高校の先生による「自分のストーリーを効果的に伝えるために」をテーマにした出前授業や、官公学生服による「マナー講座(進路編)」を実施しました。自分を表現するための技法や意識すべきポイント、心構えなどを学ぶとともに、取組や活動の姿を振り返る視点にもなり、「チャレンジ&チェンジする力」や「自己表現力」の育成につながる時間となりました。

「自分のストーリーを効果的に伝える」をテーマにした出前授業

「自己表現カード」の見直し

「マナー講座」

「相互面接練習」

改善ポイント5 事後指導における「2年生の進路学習との連携」

「進路探究」は、企業による面接体験がゴールではありません。自己表現や進路へ向けて考えたことを、入試本番以外のところでも伝える場を用意することで、入試での面接の有無に関わらず、全員が最後まで、単元全体の活動に意欲を持たせるとともに、自己表現力を向上させることにつながります。そこで、「進路探究」のまとめの活動として、「進路学習を始める2年生にお手本を見せる」「下級生の進路選択に役立つアドバイス動画を作成する」というパフォーマンス課題を設定しました。

生徒への掲示資料

注意事項

- 3分以上5分以内の動画にする
- 自己表現本番と同じ服装・道具を用いる（ネット環境は使えない）
- 私立入試で終わっている生徒も同じ活動をする。

*1・2年生へ、公立入試がない生徒は、自己表現の見本を見せに行ってもらいます

- 「進路選択のアドバイス」は次のテーマをうまく入れ、2分以内の動画を作ってください。
- 「進路選択へ向けてよかった取組」
- 「進路選択をする上での後悔・反省点・難しかったこと」
- 「自己表現のポイント」

下級生へのアドバイス動画

- 自分が頑張ったことなど何について話すのかを決める
- 話題を決めたらその話題の大まかなストーリーを考える

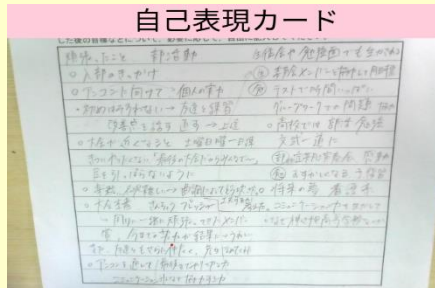
あったことだけを言っても面接官には自分がどういう人なのかは伝わらない

その時の自分の考えたことや努力したことを内容に入れる（例 部活...どんな練習をしたのか・その練習でどんな効果があったのかなど）

いきいきと話せる内容にすると話しやすい！

- 頑張ってきたことなどでついでに話を終盤に持っていかせる
- その力を生かしてどのように学校生活を送るか・高校での目標・将来の夢につなげて話す

自己表現カード
自己表現カード



進路体験報告会



【2年生のコメント】

○長所と短所を主に話してくれた方や、好きなことについて話してくれた方がいたので、自分は何を主に話すのかをしっかりと決めることに活かしたい。なぜそのことが長所なのかという理由を、複数話していたので、自分もどうゆうふう理由話すのか考えるときに、内容を確認して活かしたい。

○三人とも、学校生活で頑張ったこと、高校でやりたいことを表現していたので、私もその目線で考えて見ようと思います。作るときに高校を志望した理由や、高校で何を頑張りたいかなど将来のことも考えて作ろうと思いました。発表のときに話し方に抑揚があったり、1つ1つの文章が短いと聞き取りやすかったの、それも取り入れようと思いました。

【3年生のコメント】

○自分が何を伝えたいかを1つ決めて、それについて説明するために自分が今までやってきたことや好きなこと、将来やりたいことを伝えるのは難しかった。しかし、発表し終わった時に質問をたくさんしてくれたので、自分が何を言いたいのかを質問を答えることによってより深めることができたと思う。

○思いもよらない質疑がたくさん飛んできたので、改めて質問への対応力が大切だと思った。

○2節 成果と今後の検討事項

(1) 成果

①「自分の特徴と進学先や将来の夢を関連させた自己表現を考え、実践することができた」と感じている生徒の記述が多く見られた。

2022年度キャリア・パスポートより

甲元	自分がこれから人生でやりたいことや自分自身のことについて、しっかり理解する。	自分が行きたい高校について詳しく調べることができ、自分の特徴と結びつけ、から志望理由を考えたり、自己アピールをすることができたこと。自己アピールは流れが良い構成を考えることができたのでよかった。もっと良いものを作る。
A:身につける具体的な力	③	

(2) 今後の検討事項

①生徒がより成長を感じられるよう、企業による面接体験が複数回できるような単元設定を行う。

「進路探究学習(企業面接・校長面接・自己表現演習・マナー講座)」の取組をよりよくするための改善点を記入してください。

面接ノートを各個人で用意させ、助言・講評などを参考に自分で、より良い面接になるよう、文章化させて、変容がわかるようにする。

同じ内容を取り組ませ、自分たちの変化に気付かせる事ができればより良いと感じた。(企業面接では、2学期の始めと終わりに知らない大人にどれだけ喋れるようになったか10段階で評価させるなど)

②企業の人から、資質・能力に基づいた評価に加えて、より具体的なエピソードを盛り込むことや、表現方法の工夫のポイントなど、より細かいアドバイスをしてもらうことができた。

企業の事後アンケートより

1 当てはまるものに○をしてください
4:当てはまる 3:少し当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:全く当てはまらない

(1) 事前説明で、面接のねらいや流れを理解できた。	④・3・2・1
(2) 生徒に自己表現力が身についていると思う。	4・③・2・1
(3) 生徒の説明した内容は適切だったと思う。	4・③・2・1
(4) 質疑に対する受け答えは適切だったと思う。	4・③・2・1
(5) 身だしなみやマナーは適切だったと思う。	④・3・2・1

2 事前連携や事前説明で、改善点があれば記入してください

もう少し日程にゆとりがあればよかったと思います。連携が必要な生徒への教育的配慮をすべきだと反省しています。

3 この活動をよりよくするために、改善点やアイデアがあれば記入してください

緊張のため、話すスピードが速くなりがちなので、自己アピールポイントでは、具体的なエピソードを入れ、情報が多すぎないようにすることが大切ではないかと思いました。生徒たちの真面目に取り組む姿が、頼もしく感じました。

2023年度キャリア・パスポートより

単元名: 企業面接

A: 役割	C: 具体的な能力にたいする目標	D: 目標に対する振り返り
面接のない大人に対して自分の考えをきちんと伝えることができるようになる。	自分の長所や決意をはっきり言う	「自分の長所は何ですか?」や「志望した理由は?」と聞かれた時、何は言えなかった? はっきり言うことができなかった。改善策として、聞かれたことがすぐに言うようにあらかじめ決めておいたり、最低限の事だけ言えます。
☑️チャレンジ&チェンジする力 ☑️自己理解力 ☑️自己表現力		
E: 「印象に残ったこと」や「うれしかったこと」など	企業面接をして知ることができたことは、面接官は自分の事以外に学校や家族のことを聞いてくれることを知り、また、解答以外にも姿勢を見ることを知り、また、企業面接を通して、もっと説明力をみがいた方がいいと思いました。そのためには、授業での説明やプレゼンなどの時間を大切にしようと思いました。	
F: この単元での学びや経験を普段の生活でどう生かす?		

教職員アンケートより

「進路探究学習(企業面接・校長面接・自己表現演習・マナー講座)」の取組を通じて、生徒の変容がみられることがあったら記入してください。

自分は何がしたいのか考えるきっかけになっていると思います。自分の伝えたいことをどう伝えれば分かりやすく伝わるのか考える生徒が増えました。

「進路探究学習(企業面接・校長面接・自己表現演習・マナー講座)」の取組で、「実践してみても良かった」ということを記入してください。

面接や自己表現演習は、コメントなどから自信をつけた生徒も多いと感じる。教職員以外の声を実際に聞き、演習できたことはよかったと思う。

第7章 ルーブリックによる資質・能力の評価

この章では、資質・能力の向上を目指した「ルーブリック評価」の取組を紹介します。キャリア教育で育成を目指す資質・能力がどの程度身についたかを評価する際、非認知的な部分を評価するため、アンケートなどによる数値的な部分だけでは、児童生徒に本当に力が身についているかを見取することは難しいと考えます。

日々の実践の中で、どのような手立てを行った結果、どのような効果が発揮されているのかをしっかりと検証・分析し、児童生徒自身が目指すべきゴールの姿をイメージしやすくするために、新市中央中学校区で身につけさせたい資質・能力の各学年の系統表で示している姿を、各教科・活動の特色に合わせて具現化していくことが必要でした。

本校区では、「研究授業」と「年間計画の中で『キャリア教育の重点授業』としている授業及び単元」で、ルーブリックを作成しました。

ルーブリック形式案

○1節 ルーブリック作成の流れとルーブリックの形式案

ルーブリックを作成するにはいろんなポイントがあると思いますが、本校区のルーブリックづくりの流れと、ルーブリックの形式案を2つ紹介します。

step 1 資質・能力に基づくルーブリックの作成は、教科・活動との「相性の良さ」をよく考える。

ルーブリックを作成していく際、校区研修会や推進委員会等で最も多かった意見は、「教科の目標と資質・能力のルーブリックのすり合わせが難しい」というものでした。研究2年目は、各校で、資質・能力に合わせたルーブリックづくりを行いました。研究授業で取り扱う単元に、無理やりルーブリックを作成したため、教職員に混乱や負担感を感じさせるものになってしまいました。

そのため、3年目からは年間指導計画の中で、学習内容と3つの資質・能力の関連性が強いと考えた単元を重点単元とし、その単元において、単元全体を通じたルーブリックを作成していきましました。

step 2 ルーブリックは「B評価」を基準に作成していく。また、そのB評価の具体的な姿を記載する。

本校区では、資質・能力の系統表の内容自体を「B評価の姿」として設定しています。そのため、ルーブリックを作成する際も「B評価」から作成することで、ルーブリックの内容が考えやすくなりました。

例：網引小学校6年生特別活動

目標 学級をよりよくしていくための取組を、合意形成をしていながら話し合うことができる。			
本時の評価基準 自分たちの課題や解決の方法を考えるという提案理由にそって、進んで意見を言ったり友達の見解を聞いたりして、折り合いを付けながら活動を決めることができる。			
	レベルA 学級をよりよくしていくための方策を、他の意見と折り合いを付けながら話し合うことができる。	レベルB 学級を良くしていくための自分の考えを発表できる。	レベルC 友達の見解をもとに自分の考えをもつことができる。
④ 自己表現力			
⑤ 主体的に取り組む態度			

形式案1：3段階型のルーブリック（例：新市小学校【4年生・面積】）

評価の観点 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現 自己表現力	主体的に学習に取り組む態度 チャレンジ&チェンジする力
	A	面積の単位のよみ方、かき方、相互関係や長方形、正方形の求め方について確実に理解し、面積の単位「cm ² 」「m ² 」「a」「ha」「km ² 」の相互関係をとりえ、面積公式を利用していろいろな形の面積を求めることができる。	面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えるとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察したり、面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えたり、伝えたりしている。
B	面積の単位のよみ方、かき方、相互関係や長方形、正方形の面積が、公式によって計算で求められることを理解し、面積を「cm ² 」「m ² 」「a」「ha」「km ² 」の単位を用いて表すことや面積公式を使って面積を求めることができる。	面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えるとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察したり、面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えたりしている。	図形の面積の求め方を振り返り、これまでに学習した面積の求め方や単位との関係について、多面的に捉えてよりよいものを求めて粘り強く考えている。
C 見への手立て	単位の相互関係について図を使って視覚化したり、長方形、正方形を単位面積のいくつ分で表したりすることで、単位の相互関係や公式の意味を理解できるようにする。	長さやかさ比べの学習で単位を決めて調べたことを想起させることで、広さにも同じ考え方が使えるぞうだという見通しを持つことができるようにする。	ゲームを取り入れたりと、面積比べの場面を設定したりするたり操作したりする活動をとり入れることで、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。

*ルーブリックについて

A:「十分満足できる」 B:「概ね満足できる」 C:「努力を要する」

形式案2：チェックボックス型でのルーブリック
(例：上…常金丸小学校【2022 6年：体育・バレーボール】
下：新市中央中学校【2023 3年：総合的な学習の時間・進路探究】

(1) キャリア教育の資質・能力と本単元で目指す具体的な児童生徒の姿

チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
活動を振り返り、改善策を考える。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて説明できる。

本単元における「チャレンジ&チェンジする力」の向上につながる児童の姿

S	A	B	C
・自分の課題の解決に向けて活動している。 ・活動を振り返り、改善策を考えている。 ・課題を克服している。 ・互いにアドバイスをし合っている。	・自分の課題の解決に向けて活動している。 ・活動を振り返り、改善策を考えている。 ・課題を克服している。	・自分の課題の解決に向けて活動している。 ・活動を振り返り、改善策を考えている。	・自分の課題の解決に向けて活動していない。

(↑*研究3年目は、A・B・Cの3段階に統一)

チャレンジ&チェンジする力 (A:4つ B:2~3つ C:1つ以下)

達成状況を振り返り、改善策を考えることができる。

- 面談練習や自己分析の活動の振り返りを行った。
- 面談練習や自己分析の活動の振り返りを基に、自分で改善策を考えることができた。
- ペア・グループの話し合い、企業の人のアドバイスなど、他者の意見を踏まえて改善策を考えることができた。
- 考えた改善策を、実際に試し、さらなる改善策を考えることができた。

step 3 ルーブリックは、教職員と児童生徒が常に意識できる&振り返りをする場面を設定する。

ルーブリックは、ワークシートや板書、振り返りシートなどの中に入れ、各授業の終わりや単元の終わりに振り返る場面を設定しています。ルーブリックに基づいて振り返りを行うことで、児童生徒がどのように行動していたか、教職員の指導はどうだったかを振り返り、資質・能力の向上へ向けて、児童生徒・教職員共に成果や改善点を見つけていくことができます。

社会科3年 公民「私たちと現代社会」の単元で設定したルーブリック

討論ルーブリック【討論課題の際にAの姿を意識しながら自己表現【自分の考えを伝える作業】に取り組もう！】			
A	B	C	D
自分の思いや考えを、資料から読み取った情報や生活体験を複数組み合わせたり、他者の見方・考え方を取り入れたらうえて、説明できている。	自分の思いや考えを、資料から読み取った情報や生活体験を複数組み合わせたり、他者の見方・考え方を取り入れたらうえて、説明できている。	自分の思いや考えを、資料から読み取った情報や生活体験を複数組み合わせたり、他者の見方・考え方を取り入れたらうえて、説明できている。	自分の思いや考えを、資料から読み取った情報や生活体験を複数組み合わせたり、他者の見方・考え方を取り入れたらうえて、説明できている。

②討論ルーブリックをもとに、今日の自分の自己表現は(丸をつける) (A B C D)

③もっと良い自己表現(討論)へむけてどんな工夫・取組を行うか

④今日の討論課題を受けて、今日の自分の自己表現は(丸をつける) (A B C D)

⑤もっと良い自己表現(討論)へむけてどんな工夫・取組を行うか

②今日の討論課題を受けて、パフォーマンス課題である【日本への「移住・帰国」】の思いや考えをもちた

④今日の討論課題を受けて、パフォーマンス課題である【日本への「移住・帰国」】の思いや考えをもちた

授業中の討論

どうやったら相手が納得するだろう？

根拠をしっかりとさせるために、賛成・反対を裏付けるものは何？

高校の先生・生徒との「討論テーマ」の交流

(3) 3年生…社会 重点：自己表現力

Q1：キャリア教育で育てたい資質・能力の系統表に基づいて設定した「具体的な生徒の姿(評価基準)」へ向けた指導の工夫は適切だったか。

- 【成果】
- たくさんの資料を読み取る力があつた。自分の考えをしっかりとってWSに書いていた
 - 授業の中でルーブリックを示すことが大切
 - 評価(A・B・C・D)について説明したことで何を意識すればよいか明確化された
 - 教師から豊富な資料があつたから、生徒が自分の意見に対して根拠を持つことができた。
 - 自分の意見を伝えあえる学級の雰囲気
 - 指示されてすぐ視界が広がる。男女関係なく活気があつた
 - 普段は意見を言わない子ども意見を出していた
 - それぞれの活動の後に、しっかりアウトプットの時間があつた
 - 課題設定が、自分のこととしてとらえている。
 - 生活体験とのつながり(意欲になる)、他のテーマと関連付けられていた(災害・教育など)
- 【改善点】
- 自分の生活体験と結び付けさせる指導の際、chromebookで調べた具体などを見せる
 - 相手からどんな質問が来るか予想させると良い
 - ルーブリックのA評価に、「他者の意見」が入っているので、(他の「○○」な意見はこうであつたけど「○○」だった)のようなことをかけると良いのでは？
 - 相手もわかっているつもりで討論をしている部分のみみられた(言葉の意味など)
 - 行動観察の評価が難しい
 - 最終的に自分の考えが変わつた生徒があつたが、その理由をさらに説明できればよかつた
 - 普段の授業から、「他者に説明する」練習をすることで、キャリア教育につながる
 - 机間巡視しながら、班の中の良い意見を取り上げ、フィードバックしていく

○2節 成果と今後の検討事項

(1) 成果

① 教員側の授業づくり・改善や、児童生徒へのフィードバックへの視点に役立つ。

教職員アンケートより

子どもたちにどんな力を身につけさせるのが良いか、具体的かつ段階的に作成できたので、指導や評価に活かすことができる。

生徒にとっての目標になっていた。自己表現が入試に必要なになるために、そこを意識しながら授業を作成することにつながった。

望ましい姿を具体的に設定することで、児童にフィードバックする際に、より具体的に伝えることができた。

戸手小学校でのルーブリック活用による児童の姿（再掲）→

教職員アンケートより

児童が分かりやすい言葉で作成したため、毎授業で提示すると、児童も意識することができた。

児童がルーブリックを見返して、自信を持つことができた。「ぼくはこんなにがんばったんだ。」と喜んでいました。

② 児童が自分で達成状況をふり返りながら、目指す姿を意識して活動できる。

本時の評価規準

旧校舎に開いた人やもの作りのプロフェッショナルの方との関わりを通して、自分たちができていることを考えたり、改善策を考えて伝えることができています。

	レベルA	レベルB	レベルC
【チャレンジ&チェンジ】	自ら企業の方にアドバイスを聞いて、自分たちができていることや改善策を考えたり、取組を再構成したり、することができる。	友達と話し合いながら、自分たちができていることや改善策を考えたり、取組を再構成したり、することができる。	各部の取組の改善策を考えられている。
【思考・判断表現】	子どもの姿の具体と支援 ・コトブキ印刷さんに関して、原価が1700円だから、1800円で販売しよう。	・みんなで決めた1200円ぐらいでいいかな。でも、原価が高いからもう少し高くして、1500円で200個にしよう。	・原価が高いから、どうしようかな。 ↑【Cの児童への支援】 ・友達やコトブキ印刷さんに声をかけてみんなで考えられるようにする。
【商品開発部】	・旧校舎で過ごした日常の思い出を再構成して、2つ以上入れる。	・読み札を再構成することができる。	・どの読み札を再構成するか分からない。 ↑【Cの児童への支援】 ・アンケートを基にキーワードを見つけて考えさせる。 ・友達やコトブキ印刷さんに声をかけてみんなで考えられるようにする。
【アンケート部】	・買ってくれる人をより多くするために、宣伝方法を2つ以上考えている。	・買ってくれる人をより多くするために、宣伝方法を考えている。	・買ってくれる人をより多くするために、宣伝方法を考えていることができていない。

＜児童の振り返り＞
商品を開発する中で大事なことは、コンセプトとデザインだということが分かり、もっとターゲットをしっかりと決めて、コンセプトを明確にしないと駄目だと思いました。



「企業の方に直接質問したり相談したりすることで、修正すべきこと、もっとしなければいけないことが見えてきた！」



成果として、重点「チャレンジ&チェンジする力」の向上の兆しとなる姿がたくさん見られた

(2) 今後の検討事項

① ルーブリックの精度を高める。(新市中央中学校のルーブリックを取り扱った授業の研究協議より)

ルーブリックをチェックボックス型で作成したことにより、実践している教員の全員が、同じ基準をもって授業に臨むことができ、ばらつきのない授業展開（共通認識を図った）になりました。その分、資質・能力の系統表に沿ったルーブリックの質が、授業の質に影響してくるため、具体的な姿をもっとイメージ化していく必要があります。特に、各学習活動の内容部分（発表で言うと、発表の中身の質）もこだわっていけるようにルーブリックを設定していく。

自己表現力 (A:7つ以上 B:5~6つ C:4つ以下)

自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる。

○アンケート調査発表では、相手に聞き取りやすい声の大きさと話している

○アンケート調査発表では、相手に聞き取りやすいスピードで話している

○アンケート調査発表では、聞いている人の方を見ながら発表している(画面や原稿ばかりみない)

○アンケート調査発表では、発表時間を意識できた

○アンケート調査発表資料のスライドの文字や写真・図は見やすいものになっている

○スライド以外に、ジェスチャーや手持ち資料など、伝える工夫がある。

○アンケート調査発表資料は次の4つの項目の内容が入っている

○アンケート結果 ○アンケート結果の考察 ○アンケート結果の考察と新人研修の内容との関連

○アンケート調査を行ったの成果と課題、今後がんばりたいこと

○自分の意見や考えと調べた内容を区別してスライドができています

【研究協議で出た意見】

○チェックボックスにすることによって、簡単に何ができて、何ができていないのかを把握することができるのは良かった。その分、発表内容の質にこだわる部分での評価を生徒自身が追求できていない。

○先生自身のルーブリックに照らし合わせた評価はあったが、先生の言葉に生徒たちの自己評価が左右された部分がある。

【広島県教育委員会 丸山指導主事の助言】

本時のルーブリックでは、「表現力」の要素が強く、「自分の思いや考え」といった「自己」の部分にこだわったルーブリックにはなっていない。教員側・企業側の声かけも、「なぜそのような結果になると思う？」といった質的な部分に言及する声かけが必要。

チェックボックス型の留意点



チェックボックス型は、視点が非常に分かりやすいですが、「深さを追う」項目設定が難しいです。活動内容によって、3段階型とどちらがよいのかをよく検討してください。

② 校区や校内としてどこまでを統一していくか。

教職員アンケートより下のようなコメントがありました。校区で取り組む際、どこまでの範囲を校区として統一していくかは、持続可能性を追求していく上で、重要なポイントになります。第2章の資質・能力を位置付けた年間計画や重点単元における単元計画のように、「資質・能力を意識して、これだけは絶対外さないポイント」をしっかりと決め、校区として取り組みやすい方法を審議していくことが大切です。

教職員アンケートより

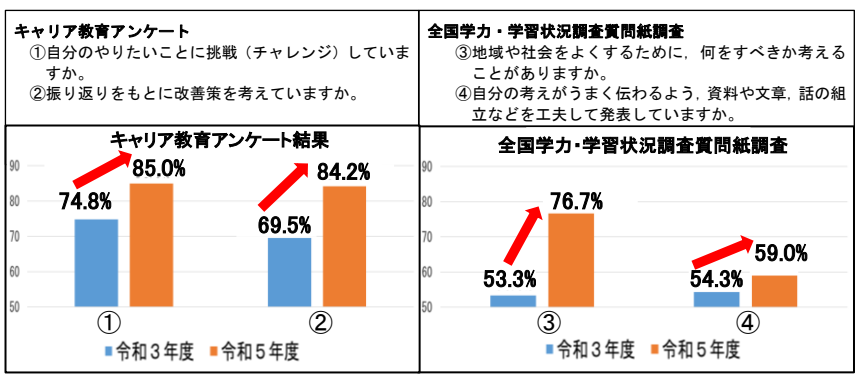
各校が異なる書き方の中で内容を考えていくものだったため、系統表からさらに文言を焦点化するとすると言葉遊びになってしまうこともあった。校区で統一した評価の書き方や基準があると、より分かりやすく、共通認識を図りながら作成することができる。

第8章 おわりに～本事業全体を通じての成果～

この章では、キャリア教育に関わる活動全体を通して、アンケート調査やインタビューをもとに、児童生徒や教職員がどのように変わったか。キャリア教育を進めていく上でのアドバイスを紹介します。

全国学力学習状況調査質問紙調査及び中学校区独自アンケート結果から見る児童生徒の資質・能力の変容

質問項目	自己理解力			チャレンジ&チェンジする力			自己表現力				
	7 自分には良いところがあると思いますか？	9 将来の夢や目標を持っていますか？	30 地域や社会をよくするために、何をすべきか考えますか？	20 家で自分で計画を立てて勉強しますか？	39 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか？	44 学習した内容について、分かった点やよくわかった点を見直し、次の学習につなげることを取っていますか？	47 学級活動における話し合いを活かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか？	38 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか？	40 各教科などで学んだことを活かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていますか？	43 学級の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたりする機会がありますか？	46 あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか？
R5年度中学1年生											
R4 ↓ 小6	82.6%	81.6%	66.7%	74.1%	71.6%	79.6%	73.9%	57.0%	75.6%	80.6%	76.1%
R5 ↓ 中1	85.0%	76.9%	81.1%	75.5%	88.1%	88.1%	91.6%	60.3%	84.6%	86.0%	87.4%
増減	2.5%	-4.7%	14.5%	1.4%	16.5%	8.6%	17.7%	3.3%	9.0%	5.5%	11.3%
R5年度中学2年生											
R3 ↓ 小6	79.4%	82.5%	53.3%	73.9%	74.8%	82.5%	69.5%	54.3%	64.8%	74.2%	71.7%
R5 ↓ 中2	77.4%	60.2%	76.7%	72.9%	85.0%	85.7%	84.2%	59.0%	75.9%	80.5%	84.2%
増減	-2.0%	-22.3%	23.4%	-0.9%	10.3%	3.2%	14.7%	4.7%	11.1%	6.3%	12.6%
R5年キャリア教育アンケートの比較 (校区全体)	チャレンジ&チェンジする力			自己理解力			自己表現力				
	4月	11月	増減	4月	11月	増減	4月	11月	増減		
低学年	90.4%	89.7%	-0.7%	87.5%	84.9%	-2.6%	77.3%	82.5%	5.2%		
中学年	87.2%	86.9%	-0.3%	84.4%	83.9%	-0.5%	79.9%	81.0%	1.1%		
高学年	81.9%	82.7%	0.8%	86.7%	87.5%	0.8%	79.4%	80.7%	1.3%		
中学生	82.1%	83.7%	1.6%	80.4%	82.3%	1.9%	80.7%	83.3%	2.6%		
校区全体	85.4%	85.7%	0.3%	84.7%	84.7%	0%	79.3%	81.9%	2.6%		



【成果】

- ①キャリア教育アンケートの結果やキャリア・ログ/キャリア・パスポートを活用して、学習活動の過程をふり返り改善策を考える取組が、もう一度やってみようという意欲へとつながり、「チャレンジ&チェンジする力」に対する肯定的評価が高まったと考えられる。
- ②地域や企業と連携した出前授業など、実社会とつながる実践を積み重ねてきたことで、「自己理解力」の目指す姿である、社会参画しようとする意識が高まったと考えられる。
- ③R5年度のキャリア教育アンケートの結果を比較すると自己表現を最終課題に据えた各種取組・行事を精力的に仕組むことにより、「自己表現力」に対する肯定的評価が高まってきたと考えられる。

【今後のポイント】

- ①各活動と、児童生徒の将来の夢や目標とのつながりをより実感できる単元開発を行う。
- ②「自己表現力」については、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していますか」の項目が、大きくは伸びていない。表現するまでの過程で「伝えたい」という意欲を高め、自分で伝え方を工夫したいという思いが児童生徒から湧き上がってくるような活動にしていく必要がある。

【成果】各活動を通じて資質・能力の高まりを実感しており、これまでの取組や授業の内容等を、企業・地域の力をうまく借りながら改善しようとしている。

【今後のポイント】企業との連携、単元計画作成など、教職員の負担の部分も考慮し、持続可能な取組ができるようにしていく。



持続可能な取組にしていくために

- ①この「実践の手引き」のように、引き継ぐための資料をきちんと残し、データ・紙面の両方で「誰でも分かるように」整理しておく。
- ②小中一貫教育における部会の取組に、キャリア教育推進体制を引き継ぎ、校区全体が分担して、資質・能力の向上へ向けた取組ができるように研究推進体制を整理しておく。

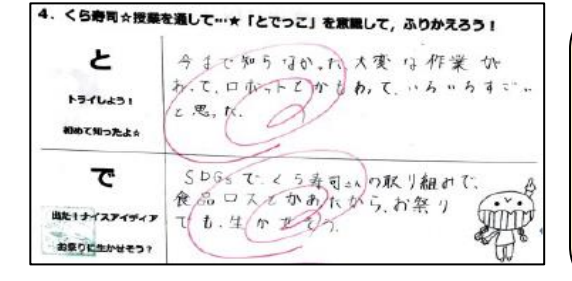
教職員アンケート結果・インタビューから見る教職員の変容

校種	質問項目	「自己理解力」の向上へ向けて、校内や学年で実践のしていることの内容や意図を理解している			「自己表現力」の向上へ向けて、校内や学年で実践のしていることの内容や意図を理解している			「チャレンジ&チェンジする力」の向上へ向けて、校内や学年で実践のしていることの内容や意図を理解している		
		R4年度肯定	R5年度肯定	増減	R4年度肯定	R5年度肯定	増減	R4年度肯定	R5年度肯定	増減
小学校	R4年度肯定	100%	100%	100%	90%	93%	88%	78%	85%	93%
	R5年度肯定	98%	95%	98%	90%	85%	90%	73%	95%	85%
中学校	R4年度肯定	95%	95%	100%	95%	100%	95%	40%	90%	90%
	R5年度肯定	100%	93%	100%	93%	93%	93%	47%	87%	87%

Q キャリア教育の取組によって教職員・地域が変わったことは？

- 【小学校職員】教職員が出前授業を単発で行うのではなく、カリキュラムの中にどう位置付けるのかしっかり考えるようになった。
- 【中学校職員】社会で働く大人と接することで、社会参画に向けた意識が出てくるようになったのではないかと思います。
- 【中学校職員】教員と地域のつながりはとてもできた。各学年の取組を地域に伝えながら、まさに地域と共に生徒を育てることができていると思う。

これからキャリア教育を始める学校・教職員へ向けたアドバイス



【小学校職員】キャッチフレーズ（資質・能力）を親しみやすいものにする事で、児童自身が常に意識して取り組むことができます。

【中学校職員】キャリア・パスポートの作成。まずはここから始めていくと目指している方向が定めやすいと思う。自分自身の認識が甘く、2年目くらいにようやくキャリア教育のルールに乗れた気がする。生徒も同じで何をやっているか分かる取組があるとよい。



【中学校職員】自己理解のためのエンカウンターなどを取り入れてみたり、出前授業で実際に社会の中ではたらく人の話を聞く機会を設けたりするのがよかった。



【小学校職員】出前授業の際にインタビューをする時間を設け、仕事の喜びや大変さ、仕事をするきっかけなどを聞く。様々な職業観に触れることができ、子ども達のキャリア形成につながると思う。



【小学校職員】楽しいけれど、大変。大変だけれど、楽しいです。難しく考えず、まずは今している活動につながりを持たせたり、その価値を再確認したりする中で、「他にもいいものがあるかな？」と追加するようにすると、無理なく進められると思います。先生自身が「やらされている」という感覚でなく、楽しんで取り組むことが第一だと思います。

